

韓国語 I

担当教員 李 ヒョンジョン

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象 日文・社文・企シ（月木3）

【授業のねらい】

初めて韓国語に接する学習者を対象に、文字の仕組みや発音の仕方などをしっかり押さえることで、韓国語能力の基礎作りを図ります。また、学習した文字を応用して、日常的な会話表現を身につけると同時に、韓国という社会や生活文化などにも接することで、ことばと文化を結ぶ韓国語授業を目指します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス：コース紹介、自己紹介、あいさつ練習、ニーズ調査
2	基礎・第1～2課：韓国語の文字の仕組みと基本母音
3	基礎・第3課①：平音と発音練習
4	基礎・第3課②：激音と濃音の発音練習
5	基礎・第4課：複合母音の仕組みと発音練習
6	基礎・第5課：終声(パッチム)の仕組みと発音練習
7	基礎・第6課：発音の変化 / 韓国映画を楽しもう！
8	第1課：名詞文①「～は～です」
9	第2課：名詞文②「～は～ですか」
10	第3課：名詞文の否定表現「～ではありません」、指示詞「こ・そ・あ・ど」の活用
11	第4課：存在の「あります(います)/ありません(いません)」表現
12	第5課：用言文の丁寧表現①「します/しますか」の表現
13	第6課：用言文の丁寧表現②「します/しますか」のよりカジュアルな表現
14	用言文の活用、名詞文と用言文における丁寧表現の比較
15	作文練習と総復習
16	期末試験およびフィードバック

【履修上の注意事項】

- ・初日の出席は必須条件。出席しないと登録が取り消される可能性あり。
- ・毎回の出席と授業活動には積極的に参加すること。
- ・授業以外の自習および課題にも力を入れること。

【評価方法】

- ・期末試験(50%)、出席(25%)、小テスト・課題(20%)、授業態度(5%)の平均により評価する。
- ・授業回数の3分の1以上欠席の場合、期末試験と関係なく不可とする。

【テキスト】

木内 明 著『基礎から学ぶ 韓国語講座（初級）』 国書刊行会 (2,100+税)

【参考文献】

辞書や参考書については必要に応じて授業で紹介する。

韓国語 I

担当教員 長嶺 聖子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象=英米・産情(月木3)、2~4年次対象=日文・英米・社文・人福(火金2)

【授業のねらい】

初めて韓国語を学習する人でも楽しめる「話せる韓国語」を心掛けます。文法解釈はテキストを使用して韓国語と日本語の文法に関する多くの共通点や相違点を見分け、確実に韓国の文字「ハングル」の「読み」、「書き」が習得できるように練習します。

さらに、ラボ教室のCALLシステム及び教室の機器を利用し現在の韓国の情報を、歌、ドラマ、映画、インターネットなどを通して紹介します。達成目標は、韓国の文字「ハングル」を読めるようにすることです。

【授業の展開計画】

文法と会話及び文化について同時に行います。

週	授 業 の 内 容	
1	基礎・第1課：「ハングル」の成り立ち	会話：簡単な自己紹介
2	DVD：韓国の首都「ソウル」	会話：さようなら
3	基礎・第2課：母音字の書き方と発音	会話：はい、どうぞ
4	基礎・第3課：子音字の書き方と発音	会話：～と言います
5	基礎・第4課：複合母音	会話：民族衣装について
6	基礎・第5課：末音字(パッチム)の発音	会話：韓国の名前について
7	基礎・第6課：発音の変化	会話：先生の日
8	日本語の「ハングル」表記表	会話：単語カルタ
9	第1課：文の構造	会話：韓国TVの歌番組
10	第2課：助詞	会話：パソコンで文字入力
11	第3課：疑問文／否定文	会話：レストランで
12	第4課：存在詞	会話：ショッピング
13	第5課：丁寧形語尾(～です／ます)	会話：テコンドDVD
14	第6課：疑問詞	会話：韓国映画
15	総まとめ	
16	期末試験	

【履修上の注意事項】

登録初日の出席は、必修条件です。出席しないと登録が取り消される可能性があります。授業は段階的に構成されているので、出来るだけ遅刻・欠席はしないこと。指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

出席率(25%)、課題(20%)、学期末試験(50%)、及び授業態度(5%)から総合的に評価します。

【テキスト】

『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』（国書刊行会、2,100円＋税）

【参考文献】

必要に応じて講義の中で紹介します

韓国語 I

担当教員 宋 ミンジョン

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象=人福(月木4)、2~4年次対象=法律・地行・経済・環政・企シ・産情(月木5)

【授業のねらい】

初めて韓国語を学ぶ学生を対象に、基本的な文の構造の理解及び挨拶、自己紹介など簡単な会話ができることを目標とする。

音に慣れることから始め、文字と発音を正確に習得し、基礎語彙と文法の基本事項の習得を目指す。基本的な表現を使って簡単な文章を作る練習と読む練習を繰り返す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス・文字 (ハングル) の仕組み (基礎・第1課)
2	基本母音 (基礎・第2課)
3	基本子音 (基礎・第3課)
4	複合母音 (基礎・第4課)
5	パッチム (基礎・第5課)
6	発音の変化 (基礎・第6課)
7	韓国映画と歌
8	第1課 名詞文 (挨拶と自己紹介)
9	第2課 名詞文の疑問形
10	第3課 名詞文の否定形・指示詞
11	第4課 存在詞の丁寧語尾
12	第5課 用言文の丁寧表現①
13	第6課 用言文の丁寧表現②
14	小テスト
15	前期のまとめ・試験前の質問タイム
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- 1 登録前に必ず指定学科と年次を確認し、その指定学科と年次を守って登録すること。
- 2 初日の出席は必須条件。出席しないと登録が取り消される可能性あり。
- 3 遅刻、授業中の携帯電話使用、私語は禁止。(減点対象になるので注意)
- 4 出席回数が3分の2に満たない者は、試験を受けることができない為、不可とする。

【評価方法】

期末試験 (50%) / 出席 (25%) / 小テスト・課題 (20%) / 授業態度 (5%)

【テキスト】

『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』 木内 明 著 国書刊行会 (2,100円+税)

【参考文献】

必要に応じて授業中に紹介する。

韓国語 I

担当教員 真島 知秀

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象 全学科 (月木5)

【授業のねらい】

初めて韓国語に接する学習者を対象に、文字の仕組みや発音の仕方などをしっかり押さえることで、韓国語能力の基礎作りを図ります。また、学習した文字を応用して、日常的な会話表現を身につけると同時に、韓国の社会や生活文化などにも接することで、ことばと文化を結ぶ韓国語授業を目指します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス：コース紹介、自己紹介、あいさつ練習、ニーズ調査
2	基礎・第1～2課：韓国語の文字の仕組みと基本母語
3	基礎・第3課①：平音の発音練習
4	基礎・第3課②激音と濃音の発音練習
5	基礎・第4課：複合母音の仕組みと発音練習
6	基礎・第5課：終音（パッチム）の仕組みと発音練習
7	基礎・第6課：発音の変化 / 韓国映画を楽しもう！
8	第1課：名詞文①「～は～です」
9	第2課：名詞文②「～は～ですか」
10	第3課：名詞文の否定表現「～ではありません」、指示詞「こ・そ・あ・ど」の活用
11	第4課：存在の「あります（います）／ありません（いません）」表現
12	第5課：用言文の丁寧表現①「します／しますか」の表現
13	第6課：用言文の丁寧表現②「します／しますか」よりもくだけた表現
14	用言文の活用、名詞文と用言文における丁寧表現の比較
15	作文練習と総復習
16	期末試験およびフィードバック

【履修上の注意事項】

- ・初日の出席は必須条件。出席しないと登録が取り消される可能性あり。
- ・毎回の出席と授業活動には積極的に参加すること。
- ・授業以外の自習および課題にも力を入れること。

【評価方法】

- ・期末試験（50%）、出席（25%）、小テスト・課題（20%）、授業態度（5%）の平均により評価する。
- ・授業回数の3分の1以上欠席の場合、期末試験と関係なく不可とする。

【テキスト】

木内 明 著『基礎から学ぶ韓国語講座（初級）』国書刊行会 （2,100+税）

【参考文献】

辞書や参考書については、必要に応じて授業で紹介する。

韓国語 I

担当教員 天久 恵珍

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象 経済・環政・社文（月木3）、法律・地行（月木4）

【授業のねらい】

一番近い国の言葉として簡単な自己紹介、基本的な挨拶が出来るようにします。また、韓国の独特な文字である「ハングル」に対し、正しい発音が学習を通してしっかり出来るように練習します。それとともにテキストを使用して「文法」、「語彙力」、「読解力」も習得できるよう心掛けます。さらに、メディア、インターネットを通して韓国の最新情報やニュースを紹介しながら、生活習慣、文化に関して伝えていきます

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	基礎1：ハングルと韓国の紹介&沖縄と韓国の関係など
2	基礎2：基本母音について
3	基礎3：基本子音と二重子音について（ひらがなとハングルの比べ）
4	基礎4：複合母音について（日本語のハングル表記について）
5	基礎5：パッチム（終声）について
6	基礎6：発音の変化及び総合発音の小テスト
7	第1課：「～は」、「～です」について
8	第2課：「～が」、「～ですか」について
9	第3課：「～ではありません」について
10	韓国映画と歌（大衆文化）と小テスト
11	第4課：「あります・います」について
12	第5課：「します」のニダ体について
13	第6課：「します」のヨ体について
14	総合応用について（自己紹介）
15	前期講座のまとめ。
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

- * 初日の出席は必須条件です。出席しなければ登録は取り消される可能性があります。
- * 指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

出席率（25%）、授業への参加姿勢（5%）、期末試験（50%）、小テスト&課題（20%）とし評価します。

【テキスト】

「基礎から学ぶ韓国語講座 ・初級」（国書刊行会、2,100円 + 税）

【参考文献】

必要に応じて講義の中で紹介します。

韓国語Ⅱ

担当教員 真島 知秀

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象 全学科（月木5）

【授業のねらい】

韓国語Ⅰに引き続き、韓国語の基礎構造を着実に積んでいくことで、「聞いて話す」「読んで書く」という語学技能を自分のものにしていきます。また、文化の触れ合い学習にも力を入れることで、韓国と沖縄の社会や文化を比較してみましよう。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス：今学期の内容紹介、自己紹介、ニーズ調査、レベル・テスト
2	前学期の復習①：複合母音、名詞文
3	第7課：用言文の活用①
4	第8課：用言文の活用②
5	第9課：漢数詞の練習（電話番号／誕生日／日時を尋ねる）
6	漢数詞を用いて友達作り
7	第10課：固有数詞の練習（年齢／物の数／時間を尋ねる）
8	固有数詞を用いて「買い物場面」にチャレンジ
9	韓国映画を楽しもう！ / ムービーテレコを用いたセリフの練習
10	第11課：尊敬表現の練習、日本の尊敬表現との比較
11	第12課：用言文における否定表現の練習
12	第13課：過去表現の練習
13	用言文全体の活用練習と会話
14	第14課：勧誘表現「～しよう／～しましょう（か）」の練習
15	作文練習と総復習
16	期末試験およびフィードバック

【履修上の注意事項】

- ・初日の出席は必須条件。出席しないと登録が取り消される可能性あり。
- ・毎回の出席と授業活動には積極的に参加すること。
- ・授業以外の自習および課題にも力を入れること。

【評価方法】

- ・期末試験（50%）、出席（25%）、小テスト・課題（20%）、授業態度（5%）の平均により評価する。
- ・授業回数の3分の1以上欠席の場合、期末試験と関係なく不可とする。

【テキスト】

木内 明 著『基礎から学ぶ韓国語講座（初級）』 国書刊行会 （2,100+税）

【参考文献】

辞書や参考書については、必要に応じて授業で紹介する。

韓国語Ⅱ

担当教員 宋 ミンジョン

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象=人福(月木4)、2~4年次対象=法律・地行・経済・環政・企シ・産情(月木5)

【授業のねらい】

韓国語Ⅰを履修した学生を対象に、聞いて話せる実用的な韓国語の習得を目指す。
韓国語の基礎を固めるのに必要な単語・文法・慣用句などを覚え、実際の場面で表現できるよう声に出して繰り返し練習する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス(コース紹介、学習方法、心構え)と前期の復習
2	第7課 用言の丁寧な形①
3	第8課 用言の丁寧な形②
4	復習(7~8課)と1回目の小テスト(文法)
5	第9課 漢数詞(金額、年月日、電話番号)
6	第10課 固有数詞(年齢、個数、人数、時間)
7	韓国映画と歌
8	第11課 敬語(尊敬形)
9	第12課 用言の否定形
10	復習(9~12課)と2回目の小テスト(聞き取り)
11	第13課 過去形
12	第14課 勧誘表現
13	復習(13~14課)と3回目の小テスト(会話)
14	作文練習と課題発表
15	総復習(7~14課)
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- 1 指定学科と年次を守って登録すること。
- 2 初日の出席は必須条件。出席しないと登録が取り消される可能性あり。
- 3 韓国語Ⅰを履修済みであること。
- 4 遅刻、授業中の携帯電話使用、私語は禁止。(減点対象になるので注意)
- 5 出席回数が3分の2に満たない者は、試験を受けることができない為、不可とする。

【評価方法】

期末試験(50%) / 出席(25%) / 小テスト・課題(20%) / 授業態度(5%)

【テキスト】

『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』 木内 明 著 国書刊行会 (2,100円+税)

【参考文献】

辞書と参考書については必要に応じて授業で紹介する。

韓国語Ⅱ

担当教員 李 ヒョンジョン

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象 日文・社文・企シ（月木3）

【授業のねらい】

韓国語Ⅰに続き、韓国語の基礎構造を着実に積んでいくことで、「聞いて話す」「読んで書く」という語学技能を自分のものにしていきます。また、文化の触れ合い学習にも力を入れることで、韓国の社会や文化を沖縄と比較してみましょう。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス：今学期の内容紹介、自己紹介、ニーズ調査、レベル・テスト
2	前学期の復習①：複合母音、名詞文
3	第7課：用言文の活用①
4	第8課：用言文の活用②
5	第9課：漢数詞の練習（電話番号／誕生日／日時を尋ねる）
6	漢数詞を用いて友達作り
7	第10課：固有数詞の練習（年齢／物の数／時間を尋ねる）
8	固有数詞を用いて「買い物場面」にチャレンジ
9	韓国映画を楽しもう！ / ムービーテレコを用いたセリフの練習
10	第11課：尊敬表現の練習、日本の尊敬表現との比較
11	第12課：用言文における否定表現の練習
12	第13課；過去表現の練習
13	用言文全体の活用練習と会話
14	第14課：勧誘表現「～しよう／～しましょう(か)」の練習
15	作文練習と総復習
16	期末試験およびフィードバック

【履修上の注意事項】

- ・初日の出席は必須条件。出席しないと登録が取り消される可能性あり。
- ・毎回の出席と授業活動には積極的に参加すること。
- ・授業以外の自習および課題にも力を入れること。

【評価方法】

- ・期末試験(50%)、出席(25%)、小テスト・課題(20%)、授業態度(5%)の平均により評価する。
- ・授業回数の3分の1以上欠席の場合、期末試験と関係なく不可とする。

【テキスト】

木内 明 著『基礎から学ぶ 韓国語講座（初級）』 国書刊行会 (2,100+税)

【参考文献】

辞書や参考書については必要に応じて授業で紹介する。

韓国語Ⅱ

担当教員 天久 恵珍

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象 経済・環政・社文（月木3）、法律・地行（月木4）

【授業のねらい】

韓国の独特な文字である「ハングル」に対し、正しい発音が学習を通してしっかり出来るように練習しながら、前期の文法を会話に応用し、「丁寧体」、「尊敬体」をできるようにします。また、韓国学生の最新情報や考え方も前期と同様にメディア、インターネットを通して紹介するよう心掛けます。さらに、テキストの「文法」、「読解力」も理解し、独自の応用が出来るようにします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	第7課：「～です・ます」の体について
2	第8課：「～です・ます」の体について
3	第8課：「～です・ます」の体のまとめ
4	第9課：「漢数詞」について
5	第9課：月・日について
6	第10課：「固有数詞」について
7	第10課：時間について
8	韓国の映画&歌及び小テスト
9	第11課：「敬語」について
10	第11課：「敬語」のまとめ&第12課「否定形」について
11	第12課：「否定形」のまとめ
12	第13課：「過去形」について
13	第13課：「過去形」のまとめ
14	第14課：「～しましょう」について
15	総合応用及びまとめ。
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

- *韓国語Ⅰを履修済みであることが望ましい。
- *初日は出席が必須条件です。出席しなければ登録が取り消される可能性があります。
- *指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

出席率(25%)、授業への参加姿勢(5%)、期末試験(50%)、小テスト・課題(20%)とし評価します。

【テキスト】

「基礎から学ぶ韓国語講座・初級」(国書刊行会、2,100円 + 税)

【参考文献】

必要に応じて講義の中で紹介します。

韓国語Ⅱ

担当教員 長嶺 聖子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象=英米・産情(月木3)、2~4年次対象=日文・英米・社文・人福(火金2)

【授業のねらい】

この講義は、韓国語と日本語の語順がほぼ同じであるというメリットを活かし、「読む」ことを楽しむ形式で進めると同時に、日常生活を中心とした会話学習を通して「会話」の幅を広げます。さらに、ラボ教室のCALLシステム及び教室の機器を利用し韓国の文化や現在の韓国の情報を、歌、ドラマ、映画、インターネットなどを通して紹介します。達成目標は、「ハングル」の文を読めるようにし、話し相手に合う言い方を覚えることです。

【授業の展開計画】

文法と会話及び文化について同時に行います。

週	授 業 の 内 容	
1	第7課：丁寧な語尾練習	会話：～と申します
2	ビデオ：「韓国留学150日」	会話：お久しぶりです
3	第8課：丁寧な語尾練習	会話：誕生日の歌
4	メニュー読み	会話：レストランで
5	第9課：漢数詞	会話：誕生日
6	単語カード読み	会話：韓国語で～といいます
7	第10課：固有数詞	会話：歌
8	助数詞（単位）	会話：電話番号
9	第11課：尊敬語の語尾	会話：敬語の使い方
10	丁寧な命令文	会話：韓国のドラマ
11	第12課：連結語尾（条件）	会話：DVD「ソウルの名所」
12	第13課：過去形	会話：韓国のセンター試験
13	過去形の練習：プリント	会話：韓国のお正月
14	第14課：勧誘形	会話：韓国映画
15	総まとめ	
16	期末試験	

【履修上の注意事項】

登録初日の出席は、必修条件です。出席しないと登録が取り消される可能性があります。授業は段階的に構成されているので、出来るだけ遅刻・欠席はしないこと。指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

出席率(25%)、課題(20%)、学期末試験(50%)、及び授業態度(5%)から総合的に評価します。

【テキスト】

『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』（国書刊行会、2,100円＋税）

【参考文献】

必要に応じて講義の中で紹介します。

韓国語Ⅲ

担当教員 李 ヒョンジョン

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 2～4年次対象 全学科（火金2）

【授業のねらい】

この授業では、韓国語の中級レベルに進むための段階として、初級レベルにおける重要ポイントをもう一度抑えていきます。その上、正確な読み・書き能力を備え、学習した文型を会話の運用力に活かせるスキルを持つ学習者を目指します。テキスト以外の話題も扱うことで、より韓国・韓国語を楽しんでいきましょう。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス：コース紹介、自己紹介、ニーズ調査、レベル確認
2	初級・第15課 現在進行表現「～ている」
3	初級・第16課 可能・不可能の表現「～することができる／～することができない」
4	初級・第17課 希望・意志を表す表現「～したい」
5	初級・第18課 許諾「～してもいい」／許諾を求める表現「～してもいいですか」
6	初級・第19課 義務を表す表現「～しなければならない」
7	初級・第20課 推量および意志「～と思います／～するつもりです」
8	中間テスト、韓国映画を楽しもう！
9	不規則活用の練習
10	中級・第1課 動作の原因および様態「～して／～なので」
11	中級・第2課 形容詞・指定詞の連体形
12	中級・第3課 動詞・存在詞の連体形
13	中級・第4課 逆接「～であるが」、二つの動作「～しながら～する」
14	中級・第5課 連体形まとめ
15	総復習、会話テスト
16	期末試験およびフィードバック

【履修上の注意事項】

- ・初日の出席は必須。出席しないと登録が取り消される可能性あり。
- ・毎回の出席はもちろん、授業でのペア活動・グループ活動には積極的に参加すること
- ・授業以外の自習と課題にも力を入れること

【評価方法】

- ・期末試験(50%)、出席(20%)、小テスト・課題(20%)、授業態度(10%)の平均により評価する。
- ・授業回数の3分1以上欠席の場合は不可とする。

【テキスト】

木内 明 著 『基礎から学ぶ韓国語講座（初級）』 国書刊行会（2,100円＋税）
 木内 明 著 『基礎から学ぶ韓国語講座（中級）』 国書刊行会（2,100円＋税）

【参考文献】

- ・辞書：『朝鮮語辞典』小学館（必修ではないが、持参をお勧めする）
- ・その他の参考書については必要に応じて授業で紹介する。

韓国語Ⅳ

担当教員 李 ヒョンジョン

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 2～4年次対象 全学科（火金2）

【授業のねらい】

韓国語の中級学習者としてよりレベルの高いコミュニケーション能力を身につけるための文型および語彙選択のスキルアップを目指します。また、積極的に会話に参加することで、自分の意志を伝達し、相手の意見と調整できるように頑張りましょう。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス：コース紹介、自己紹介、ニーズ調査、レベル確認
2	連体形と不規則活用の復習
3	第6課 経験の有無を表す表現「～したことがある(ない)」
4	第7課 理由を表す表現「～なので」、他の理由表現との比較
5	第8課 意志を表す表現「～しようと」
6	第9課 「～し始める」表現、「～するなり」表現
7	第10課 勧誘表現「～しましょうか」、他の勧誘表現との比較
8	中間テスト / 韓国映画を楽しもう！
9	第11課 願望を表す表現「～したらよいのだが」
10	第12課 「～時」表現の様々な形
11	第13課 間接話法「～するという」表現
12	第14課 「～するついでに」、「～すれば～するほど」表現
13	第15課 文末表現「～なんですよ」
14	地図、買い物、位置関係などの会話練習
15	会話テスト、総復習
16	期末試験およびフィードバック

【履修上の注意事項】

- ・初日の出席は必須。出席しないと登録が取り消される可能性あり。
- ・毎回の出席はもちろん、授業でのペアー活動・グループ活動には積極的に参加すること
- ・授業以外の自習と課題にも力を入れること

【評価方法】

- ・期末試験(50%)、出席(20%)、小テスト・課題(20%)、授業態度(10%)の平均により評価する。
- ・授業回数の3分1以上欠席の場合は不可とする。

【テキスト】

木内 明 著 『基礎から学ぶ韓国語講座（中級）』 国書刊行会（2,100円＋税）

【参考文献】

- ・辞書：『朝鮮語辞典』小学館（必修ではないが、持参をお勧めする）
- ・その他の参考書については必要に応じて授業で紹介する。

スペイン語 I

担当教員 又吉 パトリシア

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象=経済・環政・企シ・産情(月木3)、2~4年次対象=日文・英米・社文・人福(火金2)

【授業のねらい】

この講義では、主に初めてスペイン語を学ぶ生徒のために、役に立つ会話を習得することを目的とし、また歌やビデオ教材などを利用しスペイン語圏の世界を紹介していきます。

【授業の展開計画】

- 1週目： 世界におけるスペイン語、スペイン語圏の国々、沖縄と中南米諸国との関係の紹介
- 2週目： スペイン語の特徴(アルファベット、発音、アクセント)、数字0~10
- 3週目： 名詞の性と数、定冠詞(定冠詞、不定冠詞)
- 4週目： 主語人称代名詞、SER動詞の直接法現在、疑問文と否定文
- 5週目： 時刻と日付を表す(数字：11~、曜日、月)
- 6週目： ESTARとHAY動詞の直接法現在、場所を表す前置詞、
- 7週目： 形容詞の性と数、感嘆文
- 8週目： SER, ESTAR, HAY動詞の比較
- 9週目： -ar、-erと-ir動詞の直説法現在
- 10週目： 日常生活について話す(動詞の直説法現在)
- 11週目： 所有形容詞
- 12週目： 指示詞
- 13週目： 天気の表現、スペインの夏祭りの紹介
- 14週目： 期末テストのための復習
- 15週目： 前期のまとめ 自己紹介と家族の紹介について作文と発表
- 16週目： 期末テスト・回答

【履修上の注意事項】

- 復習は必ずしてきてください(特に動詞の活用)。積極的な授業への参加が望まれます。
- 発音に慣れるため講義前にCD(テキスト付属品)を聞いておくこと。
- 配布されたプリント、資料を大事にファイルすること。
- 前学期・後学期続けて同じクラスでの授業を取ることを望む。
- スペイン語IIを受講するにはスペイン語Iを合格していることを条件とする。

【評価方法】

最終評価は次の点の合計点とする

- 出席(10点) 授業総時間数の1/3(10回)以上欠席した場合は単位を与えない。
- テスト(60点) 小テスト、中間及び期末テストを行う(筆記、口頭テスト)
- 宿題及び課題の提出(20点)
- 授業参加、態度(10点)

【テキスト】

スペイン語でスケッチ(Unas pinceladas del español)

著者：エウヘニオ デル プラド、斉藤華子、仲道慎治(第三書房、¥2,300)

【参考文献】

「スペイン語ミニ辞典」宮城・宮本編 白水社¥2,800/「西和中辞典」桑名一博、他編 小学科¥5,800/「和西辞典」有本、宮城、他 白水社¥4,500/「現代スペイン語辞典」宮城、山田、他 白水社¥4,000 ※スペイン語電子辞書も使用可

スペイン語 I

担当教員 赤嶺 恭子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象 英米（月木3）、法律・地行・人福（月木4）

【授業のねらい】

スペイン語はスペインのみならず中南米やアフリカなど約四億人の人々によって話されている言語です。本講義では、文部科学省認定スペイン語技能検定6級の出題範囲である基礎文法の習得を目指します。さらにCDやDVDで、スペイン語の背景にある文化、社会、歴史、芸術に触れていきます。週一回、CALL教室を使用する予定です。

【授業の展開計画】

- 1週目 スペイン語の概要，アルファベット
- 2週目 スペイン語の発音，アクセントの位置，主格人称代名詞
- 3週目 名詞の性と数，定冠詞，不定冠詞
- 4週目 動詞serの直説法現在
- 5週目 動詞serの直説法現在，形容詞の性と数
- 6週目 動詞serのまとめ
- 7週目 小テスト②（動詞ser），動詞estarの直説法現在
- 8週目 動詞estarと動詞serの比較
- 9週目 動詞estarと動詞serの比較のまとめ
- 10週目 小テスト③（動詞estar），直説法現在の－ar動詞，基数
- 11週目 直説法現在の－ar動詞，疑問詞
- 12週目 直説法現在の－er動詞
- 13週目 直説法現在の－er動詞
- 14週目 直説法現在の－ir動詞
- 15週目 直説法現在－ar動詞，－er動詞，－ir動詞のまとめ。31回目にテスト(－ar, －er, －ir)のテストを行います。

【履修上の注意事項】

辞書は必携です。
指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

小テスト 45%
期末テスト 35%
授業への参加 20%

【テキスト】

高橋覚二・糸魚川美樹・福地恭子・リディア・サラ・カハ著『?ケ・テ・パサ?』2009年 朝日出版社 2,100円

【参考文献】

坂東省次著『文化と歴史で学ぶスペイン語』780円/立岩礼子・伊藤ゆかり著『スペイン語技能検定4級・5級・6級対策問題集』1500円/立岩礼子・伊藤ゆかり・福地恭子著『スペイン語技能検定6級直前対策問題』200円

スペイン語 I

担当教員 上地 リリア

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 2～4年次対象 全学科（月木5）

【授業のねらい】

はじめてスペイン語を学ぶ学生のための入門クラス。講義ではテキスト・作成プリントを主としスペイン語の基礎を学び、単語、文法、及び簡単な会話ができるようになる。また、正しい発音、会話の練習の後に、オーラルチェックを行う。音楽や歌詞などを用いて興味を覚える。ビデオを使用し、スペイン及びラテン・アメリカの事情や文化、習慣の紹介をする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Introduccion
2	Alfabeto
3	アクセントの位置
4	名詞の性・数
5	定冠詞・不定冠詞
6	形容詞
7	中間テスト
8	Ser 動詞
9	Estar 動詞
10	Ser と Estar動詞の違い
11	規則動詞（1）
12	規則動詞（2）
13	規則動詞（3）
14	総復習
15	期末テスト
16	人称代名詞

【履修上の注意事項】

二重登録に注意してください。
授業の疑問点を質問して下さい。

【評価方法】

小テスト（3回X3＝90点）を行う。
発音、会話のオーラルチェック（10点）を行う。
出席・欠席・遅刻は、総評価に入れる。
授業を8回以上欠席した学生には、単位を与えない。

【テキスト】

El Espanol（教室で販売）
授業の進行状況に添った練習問題のプリントも使用する。

【参考文献】

スペイン語 I

担当教員 小波津 フェルナンド

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象=日文・社文(月木3)、2~4年次対象=法律・地行・経済・環政・企シ・産情(火金2)

【授業のねらい】

4億人ぐらいの人口、20ヶ国で公用語として話されているスペイン語を楽しく、明るく学ぶ授業にします。外国語に興味を持たせて、自分は外国語をマスター出来る：そのヒントを与えてくれる科目にしたい！！

スペイン語圏はこんなに面白くて、こんなに日本と違うなと思わせる授業です。

但し、せっかく学ぶのであれば、挨拶程度のレベルでは満足しないで下さい。

自分の暗記力を試すチャンスです！自らの積極性はとても大切にする授業です！

【授業の展開計画】

「授業のねらい」の続き～

スペイン語は、日本人にとって発音が易しいとも言えますが、文法的に難しい点は、動詞の活用です。そこで、本講義では、動詞の活用を直説法現在形に絞って学習し、口頭での受け答え練習や、時には、英語との比較対照を通して、スペイン語の文法的特徴に慣れてもらいます。また、ビデオ教材（街の風景、シャキラ、フアネス）なども使用して、スペイン、ラテンアメリカの社会や文化に関する話題も導入します。

- 1 スペイン語の世界（話す国々、使用状況）
- 2 スペイン語の特徴： アルファベット・文字、発音（注意に必要な綴りと発音）
- 3 挨拶とスペイン語をスペイン語で学ぶ為の基礎表現 文化コーナー： スペイン語圏の生活
- 4 名詞の性と数（un amigo, una amiga, unos amigos, unas amigas）
- 5 冠詞と形容詞のはたらき（名詞との関連性）
- 6 名詞を主語としての文章作り 文化コーナー： スペイン語圏の人気スポーツ
- 7 スペイン語の主語代名詞、動詞serの直説法現在（出身地、主語の特徴、職業を言う）
- 8 数字、職業、国、言語、国籍 文化コーナー： スペイン語圏の有名な人物
- 9 所有詞前置形（mi casa es tu casa）
- 10 所有を表す表現： tener. 文化体験コーナー： 『ペルーの食文化』紫のトウモロコシ？
- 11 疑問詞 文化コーナー： スペイン語圏のジェスチャー
- 12 動詞estarの直説法現在。主語の居場所を表す。
- 13 Haberの用法（不特定な人やものが存在しているかどうかを表す）
- 14 指示詞（この、その、あの）、序数 文化コーナー： スペイン語圏の世界遺産
- 15 スペイン語Iのまとめ
- 16 期末試験

【履修上の注意事項】

ノートと辞書は必携です。単語の意味は外国語学習には不可欠です。

指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

教科書のドリル問題や中間と期末テストの成績結果、出席、授業態度（積極性、努力）、居眠りは注意されます。

【テキスト】

- 1) 朝日出版社 「総合スペイン語コース初級」 CD付（スペイン語名： Entre amigos） ISBN978-4-255-55032-9
- 2) 辞書を一冊：電子辞書 か『スペイン語ミニ辞典』（白水社） 又は『現代スペイン語辞典』（白水社） それとも 『西和中辞典』（小学館）』

【参考文献】

沖縄国際大学の図書館にスペイン語に関する図書がたくさんあります：授業でリストを配布します。例：〈DELE対策〉スペイン語基本単語辞典 ―コミュニケーションのための必修単語2500―（単行本（ソフトカバー））

スペイン語Ⅱ

担当教員 上地 リリア

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 2～4年次対象 全学科（月木5）

【授業のねらい】

後期は、前期を履修した上で残りの基礎を前期と同様に学び、更に教養を広める。講義ではテキスト、作成プリント、LL教材を使用する。また、ビデオを使用し、スペイン及びラテン・アメリカの事情や文化、習慣の紹介をする。特に、スペイン語を修得し、スペイン語圏（スペイン、中南米）の文化・習慣を知ることによって、相互に理解しあえるようにしたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Orientación (1) (2)
2	スペイン語Ⅰの復習 (L. 1-4) (L. 5-7)
3	L. 19 指示形容詞 / 所有形容詞
4	L. 8 天気 / 天候
5	L. 8 疑問詞 / テスト(1)
6	L. 9 点過去形 -ar, -er, -ir
7	L. 9 月・日
8	復習 / クイズ
9	L. 10 不完了過去 -ar, -er, -ir
10	L. 11 未来形
11	L. 12 gustar動詞
12	L. 12 現在進行形
13	L. 13 再起動詞
14	L. 14 命令形
15	総復習
16	期末試験

【履修上の注意事項】

前期、後期と続けて授業を受けることを望む。
意欲的な授業参加を求める。

【評価方法】

小テスト（3回×3＝90点）を行う。
出席・欠席・遅刻は、総評価に入れる。
授業を8回以上欠席した学生には、単位を与えない。

【テキスト】

El Español（前期と同じ）
授業の進行状況に添った練習問題のプリントを使用する。

【参考文献】

スペイン語Ⅱ

担当教員 又吉 パトリシア

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

備考 1年次対象=経済・環政・企シ・産情(月木3)、2~4年次対象=日文・英米・社文・人福(火金2)

【授業のねらい】

スペイン語Ⅰの続きです。前期に単位取得者もしくはそれと同等の語学力を持つものを対象にするため動詞の活用が中心になりますが、今回は過去形や現在進行形、現在完了形など少し複雑な文法事項を学びます。日常会話のより高度な段階をめざし、簡単なスペイン語文書の講読が可能になるまでの語学力の習得を目的とします。スペイン語Ⅰと同様、音楽、ビデオ教材、などを利用し文法事項およびスペインと中南米の社会・文化事情・生活習慣を紹介していきます。

【授業の展開計画】

- 1週目：前期で学んだ文法項目と表現の復習
- 2週目：直説法現在 語幹母音変化同詞 (PODER, QUERER動詞など)
- 3週目：現在形の不規則動 (TENER, IR動詞、など)
- 4週目：GUSTAR動詞、比較表現
- 5週目：助動詞のまとめと直説法現在の活用の復習
- 6週目：間接目的格人称代名詞
- 7週目：直接目的格人称代名詞
- 8週目：直説法現在1人称単数不規則動詞 (HACER, CONOCER, SABER)
- 9週目：スペイン語圏の国々クリスマスとお正月行事、習慣の紹介
- 10週目：再帰動詞、一日の行為について語る
- 11週目：現在分詞、直説法現在進行形
- 12週目：過去分詞、直説法現在完了形
- 13週目：直接法点過去 (規則動詞の活用)
- 14週目：前期と後期で学んだ文法項目と表現の復習とまとめ
- 15週目：期末テスト・回答
- 16週目：スペイン及びラテンアメリカの映画の紹介

【履修上の注意事項】

- 復習は必ずしてきてください (特に動詞の活用)。積極的な授業への参加が望めます。
 - 発音に慣れるため講義前にCD (テキシト付属品) を聞いておくこと。
 - 配布されたプリント、資料を大事にファイルすること。
 - 前学期・後学期続けて同じクラスでの授業を取ることを望む。
 - スペイン語Ⅱを受講するにはスペイン語Ⅰを合格していることを条件とする。

【評価方法】

- 最終評価は次の点の合計点とする
- 出席 (10点) 授業総時間数の1/3 (10回) 以上欠席した場合は単位を与えない。
 - テスト (60点) 小テスト、中間及び期末テストを行う (筆記、口頭テスト)
 - 宿題及び課題の提出 (20点)
 - 授業参加、態度 (10点)

【テキスト】

スペイン語でスケッチ (Unas pinceladas del español)
著者：エウヘニオ デル プラド、斉藤華子、仲道慎治 (第三書房、¥2,300)

【参考文献】

「スペイン語ミニ辞典」宮城・宮本編 白水社¥2,800/「西和中辞典」桑名一博、他編 小学科¥5,800/[和西辞典]有本、宮城、他 白水社¥4,500/「現代スペイン語辞典」宮城、山田、他 白水社¥4,000 ※スペイン語電子辞書も使用可

スペイン語Ⅱ

担当教員 赤嶺 恭子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象 英米（月木3）、法律・地行・人福（月木4）

【授業のねらい】

スペイン語Iで学んだ文法事項を反復練習しながら新しい事項を学んでいきます。また、スペイン語IとIIで習得した表現を用い、旅行や留学先などで簡単なコミュニケーションが行える力をつけていきます。この講義内容は文部科学省認定スペイン語技能検定5級の出題範囲です。検定試験は春と秋に実施されますので、履修後は積極的に受験して下さい。週1回、CALL教室を使用する予定です。

【授業の展開計画】

- 1週目 スペイン語Iの復習①, 時刻の表現
- 2週目 スペイン語Iの復習②, hayの用法, 動詞estarと動詞hayの比較
- 3週目 スペイン語Iの復習③, 所有格形容詞
- 4週目 直説法現在の不規則動詞①ir
- 5週目 直説法現在の不規則動詞②querer
- 6週目 直説法現在の不規則動詞③poder
- 7週目 直説法現在の不規則動詞④tener
- 8週目 直説法現在の不規則動詞のまとめ
- 9週目 筆記テスト（直説法現在の不規則動詞）, 目的格人称代名詞
- 10週目 gustar型動詞
- 11週目 現在分詞, 現在分詞の用法
- 12週目 再帰動詞
- 13週目 直説法完了過去の規則動詞と不規則動詞, 直説法不完了過去と規則動詞と不規則動詞, 直説法完了過去と直説法不完了過去の比較
- 14週目 過去分詞, 現在完了形, 命令形
- 15週目 未来形, スペイン語IIのまとめ。 31回目は口頭テストをします。

【履修上の注意事項】

スペイン語Iを履修済みであることが望ましい。
指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

中間テスト（筆記） 40%
期末テスト（口頭） 40%
授業への参加 20%

【テキスト】

高橋覚二・糸魚川美樹・福地恭子・リディア・サラ・カハ著『?ケ・テ・パサ?』2009年 朝日出版社 2,100円

【参考文献】

高橋覚二著『テーブル式基礎スペイン語便覧』2300円/立岩礼子・伊藤ゆかり著『スペイン語技能検定4級・5級・6級対策問題集』1500円/立岩礼子・伊藤ゆかり・安田圭史著『スペイン語技能検定5級直前対策問題』2000円

スペイン語Ⅱ

担当教員 小波津 フェルナンド

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象=日文・社文(月木3)、2~4年次対象=法律・地行・経済・環政・企シ・産情(火金2)

【授業のねらい】

基礎スペイン語Ⅰの続きです。スペイン語の基礎表現を発信できることは目標にします。コミュニケーションが無ければ外国語学習の意味とは？を課題に授業展開します。

スペイン語の複雑な文法事項に負けず、基礎スペイン語Ⅰと同様、適宜に視覚教材などを使用します。言語の学習と並行して、スペイン語圏世界の社会や文化事情に関するビデオ映像（ドキュメンタリー、映画）なども可能な限り鑑賞します。最終目標はスペイン語の特徴を理解する、基礎表現を言える、さらに色々を学びたい！

【授業の展開計画】

- 1 前期の表現と文法の復習 (Hola!, Que tal? Como estan?)
- 2 動詞の直説法現在形（規則活用）：-ar、-erと-ir動詞（話す、食べる、住む）
- 3 普段は何をしていますか？：日常生活を説明する。文化コーナー：スペイン語圏への旅
- 4 頻度の副詞表現：趣味、生活について話そう。
- 5 疑問詞 文化コーナー：スペイン語圏の人物『ドン・キホーテ』
- 6 前置詞：a, de, en, con, por, paraを学ぼう！
- 7 未来を表す表現（未来形の代用）：Voy a comer en Chatan.
- 8 語幹母音変化動詞Ⅰ 文化コーナー：バルセロナの世界遺産
- 9 時間を表す表現：¿Qué hora es? 日本語訳：何時ですか
- 10 移動をする時に必要な表現 文化コーナー：スペイン語圏の博物館
- 11 住居、天候表現を話す：En Okinawa hace calor 文化コーナー：スペイン語圏の食文化Ⅱ
- 12 再起動詞（立つ、起きる）日常生活：朝から晩までの行動を説明する
- 13 直接目的人称代名詞：表現力を増やす
- 14 語幹母音変化動詞Ⅰ：欲する、出来る動詞。“Querer es Poder”（やれば、できる）
- 15 スペイン語Ⅱのまとめ
- 16 期末試験

【履修上の注意事項】

ノートと辞書は必携です（外国語学習の時に単語の意味を知る必要が有ります）
指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

教科書のドリル問題や中間と期末テストの成績結果、出席、授業態度（積極性、努力）、
居眠りは注意されます。

【テキスト】

- 1) 朝日出版社 「総合スペイン語コース初級」CD付（スペイン語名：Entre amigos）ISBN978-4-255-55032-9
- 2) 辞書一冊：電子辞書 か『スペイン語ミニ辞典』（白水社）』 又は『現代スペイン語辞典』（白水社）』
それとも 『西和中辞典』（小学館）』

【参考文献】

沖縄国際大学の図書館にスペイン語に関する図書がたくさん有ります：授業でリストを配布します。

スペイン語Ⅲ

担当教員 上地 リリア

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 2～4年次対象 全学科（火金2）

【授業のねらい】

スペイン語 I・II の基礎を復習した後に、ラテン・アメリカの事情を題材にした易しい読み物をテキストとして見聞を拡充し、音楽やスペイン語検定試験の問題などを用いて関心を高める。ビデオを使用し、スペイン及びラテン・アメリカの事情や文化、習慣の紹介をする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Orientación (1) (2)
2	スペイン語 I-II の復習 (1) (2)
3	L. 9, 11 (過去形、未来形) の復習
4	L. 12, 14 (進行形、再起動詞) の復習
5	会話 (1)
6	L. 15 不規則動詞現在形
7	L. 15 比較級
8	中間テスト
9	L. 16 不規則動詞点過去形
10	L. 16 過去未来
11	L. 16 目的語代名詞
12	L. 17 形容詞 / 会話 (2)
13	L. 18 詞の講読
14	L. 19 感嘆文
15	L. 20 関係代名詞 / 総復習
16	期末試験

【履修上の注意事項】

二重登録のないように注意してください。
スペイン語 I、II を習得済みの学生。

【評価方法】

小テスト (2回×2 = 80点) を行う。
発音、会話のオーラルチェック (20点) を行う。
出席・欠席・遅刻は、総評価に入れる。
授業を8回以上欠席した学生には、単位を与えない。

【テキスト】

授業の進行状況によって作成したプリントを使用する。

【参考文献】

作成したプリントを使用します。

スペイン語Ⅳ

担当教員 上地 リリア

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 2～4年次対象 全学科（火金2）

【授業のねらい】

後期は、前期を履修した上でテキストの残りを、前期と同様に学び、更に教養を深める。また、ビデオを用いて、スペイン及びラテン・アメリカの事情や文化、習慣を紹介することによって、記憶に残る教養を身に付けたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Orientación (1) (2)
2	スペイン語 III の復習
3	L. 11 不規則動詞未来形の複数
4	L. 12 接続法現在 (1) (2)
5	L. 14 不規則命令形
6	L. 14 接続法過去
7	復習
8	中間テスト
9	L. 15 不規則比較級
10	L. 16 不規則過去未来
11	L. 20 縮小語と増大語
12	L. 21 現在分詞の用法
13	L. 22 再起動詞の不規則
14	L. 22 現在完了
15	総復習
16	期末試験

【履修上の注意事項】

前期、後期と続けて授業を受けることを望む。
 スペイン語 I、II、IIIを取得済みの学生。
 継続は力なり。

【評価方法】

小テスト (2回×2 = 80点) を行う。
 発音、会話のオーラルチェック (20点) を行う。
 出席・欠席・遅刻は、総評価に入れる。
 授業を8回以上欠席した学生には、単位を与えない。

【テキスト】

Lecturas Culturales El Espanol 共著「Yuuichi Yasui, Lilia Ota de Uechi」弘学社 2,000円

【参考文献】

作成したプリントを使用します。

中国語 I

担当教員 兼本 敏

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象 全学科（月木5）

【授業のねらい】

中国において共通語と言われる「普通話（pu tong hua）」を習得するクラスです。中国語は声調言語と言われ発音における声調（トーン）が重要です。正確な発音を習得するために、教科書の音読練習を繰り返し行います。基本文型、自己紹介、挨拶はしっかりと流暢に口から出るようになることを目標とします。教科書では中国の生活習慣や基本的なビジネス場面を紹介しています。しかし、国土も広く、めざましい発展を遂げている中国なので教科書と異なる部分もありますが、その点は授業で適宜紹介します。

【授業の展開計画】

このクラスは週に2回の授業があります。
原則として木曜日のクラスでは、教科書に沿って講義を行います。
月曜日は木曜日に学習した成果を各自発話してもらい評価します。
正しい発音（声調）で基本文型と語彙をスラスラ言えるようになることを目標とします。

週	授 業 の 内 容
1	クラスでの重要事項の確認（目標と目的・評価と課題）。中国について。中国語について
2	ピンインと漢字。発音練習
3	第一課 SVC文と疑問文 発話練習
4	第二課 SVO文 発話練習
5	第三課 SV文 発話練習
6	第四課 助数詞と数詞 発話練習
7	第五課 存在文と所在文 発話練習
8	第六課 経験、確定未来表現 発話練習
9	総復習
10	チャレンジテスト
11	定着度テスト（第一課、第二課、第三課）
12	定着度テスト（第四課、第五課）
13	前置詞、形容詞、動詞、名詞について
14	第七課 時間について
15	総復習
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

他の中国語クラスは指定学科がありますが、このクラスは全学部全学科の学生が登録可能です。
年次に関しても指定はありません。

【評価方法】

発音の習得を確認するために、毎課、口頭の小テストがあります。100%小テストの積み上げが成績になりますが、減点方式です。減点対象；遅刻、欠席、携帯電話、私語。

【テキスト】

『仕事のための基礎中国語』 著：荘巖・佐藤貴子（金星堂）

【参考文献】

講義の際に適宜紹介します

中国語 I

担当教員 車 莉莉

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象=企シ（月木3）、2～4年次対象=日文・英米・人福（月木5）

【授業のねらい】

中国語によるコミュニケーション力を獲得するには、なにより、その発音、語彙、文法などと言った基礎的なものを順次に学び、中国語の言語知識を知り、「分かる」力を育てなければならない。その見地に基づき、前期では、発音の習得とそれに関連する知識の紹介を重点に据え、授業を進めたい。声調（アクセント）を伴うピンイン（中国語の発音記号）の正確な読み方を身につけることを目標にし、「話せる」ために、しっかりと土台を作っておきたい。

【授業の展開計画】

授業回数：授業30回＋
テスト1回 授業内容 発音と語彙

最長10回（5週目まで）	中国語の①発音記号②声調（アクセント）の読み書き③発音にかかわる説明、練習、小テストなど
11～12回（6週目）	第一課 《Ni好》
13～14回（7週目）	第二課 《我姓高木》
15回（8週目）	まとめ、小テスト
16～17回（8～9週目）	第三課 《Zhe是我的漢語口本》
18～19回（9～10週目）	第四課 《我家有三口人》
20回（10週目）	まとめ、小テスト
21回～23回（11～12週目）	第五課 《我的生日是十月二号》
24回～26回（12～13週目）	第六課 《現在十二点半了》
27回～29回（13～14週目）	第七課 《我家在東京》
30回～31回（15週目）	まとめ、期末テスト

- * 1. 上記の計画はその学年に行われるイベントや臨時日程変更などにより、ずれが発生することもあるので、ご了承ください。
- * 2. 本計画表に反映されていない映像資料の使用も含まれる、ラボ教室の利用など諸状況が確定してから、実施日を知らせる。

【履修上の注意事項】

中国語に興味や関心を持ち、それを知るために、積極的に取り組む学生の登録を歓迎する。学科指定があるので、登録時によく確認してください。

【評価方法】

各種練習、小テスト、出席、期末テストを総合して評価します。

【テキスト】

『老師好！—王先生との出会い』—郁文堂

【参考文献】

中国語辞書を各自に準備してください。

中国語 I

担当教員 朱 虹

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1～4年次対象 社文（月木3）

【授業のねらい】

まず、中国語普通話の発音記号を修得し、それから教科書を中心に、中国語簡体字や文法項目を学習します。最終的に、600～700語の中国語単語と40項目の文法事項を修得した上、自己紹介や基本的な会話をマスターすることを目標とします。授業はパソコン教室でのCALLシステムを応用した授業と一般教室での授業を交替した形で行います。従来の語学学習の内容に中国語漢字の入力訓練やウェブ教材の内容を取り入れ、単語の読み書き訓練を強化し、会話の修得と共に、学習内容の幅を広げ、中国の社会や文化への理解を深めるねらいです。

【授業の展開計画】

- 1 中国語とは ①中国の概況 地理、歴史、民族、言語 ②簡体字について ③発音記号について
- 2 中国語の発音 I ①声調 ②単母音 ③入力練習
- 3 中国語の発音 II ①複合母音 ②子音 ③発音練習
- 4 中国語の発音 III ①鼻母音 ②軽声 ③声調の変化 ④入力訓練
- 5 中国語の発音 IV 発音編総復習
- 6 第1課 你好！①人称代名詞 ②“是”の文 ③疑問文 ④名前の表現
- 7 第2課 □个好□？形容詞述語文
- 8 第3課 ①指示代名詞 ②疑問詞疑問文 ③“的”の使い方
- 9 第4課 你去不去？反復疑問文
- 10 第5課 □是什么？疑問詞疑問文 副詞“也”“都”
- 11 第6課 你有哥哥□？ ①所有を表す“有” 疑問詞の学習と復習 ④語気助詞の学習
- 12 第7課 ①” ③動詞の重ね型 ④省略疑問文 ⑤スキット4
- 13 第8課 □里有几个苹果？①数詞 ②量詞 ③場所代名詞 ②存在を表す“在
- 14 第9課 今天几月几号？年・月・日・曜日・時間の表現
- 15 第10課 自己紹介文
- 16 総復習

【履修上の注意事項】

指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

主に中間テストや期末試験を中心に成績評価を行います。課題の提出物や出席状況および学習態度をも加味し、総合的に評価します。

【テキスト】

「例解中国語入門 你□我答」上野恵司著 白帝社

【参考文献】

「ことばの散歩道」上野恵司 白帝社

中国語 I

担当教員 島袋 直樹

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象 英米・産情（月木3）、法律（月木4）

【授業のねらい】

このクラスは、はじめて中国語を学ぶ学生を対象とし、聞いて話せる実用的な中国語の習得を目指す。「読み」「書き」「聞く」「話す」の基礎的な学習を行うが、前期では特に発音と声調（イントネーション）の習得に重点をおく。初学者でも正確な美しい発音ができるように一つずつ積み重ねながら指導していく。テキスト以外にも、インターネットなどを使って中国文化への関心と理解を深めていくようにする。

【授業の展開計画】

第1週：授業のガイダンス、発音（母音）、声調

第2週：発音（母音）、声調

第3週：発音（母音、子音）、声調

第4週：発音（母音、子音）、声調、発音と声調の復習

第5週：第1課・・・動詞述語文（肯定文、否定文、疑問文の言い方）など。

第6週：第1課・・・動詞述語文（肯定文、否定文、疑問文の言い方）など。発音チェック。

第7週：第2課・・・動詞述語文など。発音チェック。

第8週：第2課・・・動詞述語文など。発音チェック。

第9週：第3課・・・形容詞述語文（肯定文、否定文、疑問文の言い方）、動詞「有」など。発音チェック。

第10週：第3課・・・形容詞述語文（肯定文、否定文、疑問文の言い方）、動詞「有」など。発音チェック。

第11週：第4課・・・動詞「在」など。発音チェック。

第12週：第4課・・・動詞「在」など。発音チェック。

第13週：第5課・・・名詞述語文（肯定文、否定文、疑問文の言い方）など。発音チェック。

第14週：第5課・・・名詞述語文（肯定文、否定文、疑問文の言い方）など。発音チェック。

第15週：復習、発音チェック。

第16週：期末テスト

【履修上の注意事項】

発音や声調のチェック、基本文の暗誦など声を出すことが求められる。遅刻、欠席はしないこと。指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

出席、授業態度（積極的参加、努力）、各種テスト・チェックなどを総合的に判断して評価する。

【テキスト】

『中国語ポイント42』本間史・孟広学（白帝社）
適宜プリントを配布する。

【参考文献】

必要に応じて授業中に紹介する。

中国語 I

担当教員 張 維 真

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 2～4年次対象 法律・地行・経済・環政・企シ・産情（火金2）

【授業のねらい】

中国語の履修者の中には会話力をしっかりと身に付けたいと思っている学生が多くいます。授業では、特に発音や声調の指導に注意をはらいながら、教科書の中の基礎構文を理解し、簡単な作文力そして基礎的な会話力のアップをはかる。

【授業の展開計画】

1. 自己紹介、中国語についての説明
2. 中国語の声調「四声」の練習、発音チェック
3. 子音を加えて四声の練習、単母音の発音、発音チェック
4. 有気音・無気音の区別と練習、発音チェック
5. 有気音・無気音の練習、鼻音nとngの区別と練習、発音チェック
6. 卷舌音の練習、鼻音の発音チェック
7. 卷舌音の練習と発音チェック
8. 複母音の練習と発音チェック
9. 各自の名前の中国語の発音
10. テキストを使って、発音の総合復習
11. テキストを使って、発音の総合復習
12. 第一課に入る、発音の復習とチェック
13. 第一課の内容説明、発音練習とチェック
14. 第二課の内容説明、発音練習とチェック
15. 第二課の読み練習、発音チェック
16. 筆記テスト、第三課の内容説明
17. DVDで中国を知る
18. 第三課の読み練習、会話文の書き練習
19. 二人で会話のやりとり練習、第四課の内容説明
20. 第四課の読み練習と発音チェック
21. 中国語の歌を教える、第五課の内容説明と発音チェック
22. 第五課の読み練習と発音チェック
23. 第六課の内容説明と発音チェック
24. 第六課の読み練習と発音チェック
25. 第七課の内容説明と発音チェック
26. 第七課の読み練習と発音チェック
27. 作文練習
28. 作文練習
29. 期末テスト前の総合復習
30. 期末テスト前の総合復習
31. 期末テスト

【履修上の注意事項】

出席率を重視します。語学学習は継続的な教師による直接指導が大事です。特に中国語は発音が難しく、さらに四声という声調があります。発音と声調は教師の細かい指導を受けなければマスターできません。簡単な作文力そして基礎的な会話力のアップをはかるために、教科書の中の単語や重要構文も一部暗記してもらわなければなりません。100%の出席をめざしてください。

【評価方法】

毎課の終了時に理解度チェックを行います。評価はそうしたチェックや筆記テスト及び授業態度・出席率を加味して行います。

【テキスト】

「老師好！（王先生との出会い）」守屋 宏則等 郁文堂

【参考文献】

相原茂『中国語学習ハンドブック』大修館書店

中国語 I

担当教員 金田 知子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象 日文（月木3）、人福（月木4）

【授業のねらい】

本授業では、発音を中心に、音読練習をすることによって、中国語の発音特徴を掴み、単語の聞き取りが出来ることを目標とする。また、基本的な文法項目を理解し、簡単な会話や自己紹介などが出来ることを目指す。初めて中国語を学ぶ人でも楽しめるレッスンであるように心がけ、講義を進めながら、中国人のものの考え方、生活習慣、21世紀で激変している中国の様々な事情を紹介する。

【授業の展開計画】

*習熟度により多少変更あり。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス	17	練習
2	発音1（声調・単母音・子音）	18	小テスト
3	発音2（練習）	19	テキスト第4課
4	発音3（複合母音）	20	練習
5	発音4（練習）	21	小テスト
6	発音5（声調変化・声調記号の位置）	22	テキスト第5課
7	発音6（練習）	23	練習
8	発音チェックテスト	24	小テスト
9	名前の発音・教室用語の練習	25	テキスト第6課
10	テキスト第1課	26	練習
11	練習	27	小テスト
12	小テスト	28	テキスト第7課
13	テキスト第2課	29	練習
14	練習	30	小テスト
15	小テスト	31	期末試験
16	テキスト第3課		

【履修上の注意事項】

- ①中国語を学ぶ第一歩は発音である。発音を正確にできるためには、声を出すことが要求される。
 - ②毎課ごとに小テストがある。
 - ③遅刻、授業中の携帯電話の使用、私語等が禁じられる。
 - ④原則として追加試験、再試験は実施しない。
- 指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

成績は期末テストに50%、小テストに30%および出席状況に20%の割合で評価を行う。

【テキスト】

『老師好！』一王先生との出会いー 守屋 宏則／陳 浩／梁 月軍 著 郁文同

【参考文献】

『北京の街角で』（本校CALL教室）

中国語 I

担当教員 田添 暢彦

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象 経済・環政（月木3）、地行（月木4）

【授業のねらい】

中国語の音声に慣れ、ピンイン表記を正確に習得し、基礎語彙と文法の基本事項の習得を目指す。

【授業の展開計画】

週2回の授業のうち、一回は以下にカギ括弧を付した「基本フレーズ」を用いた会話練習、もう一回は文法事項の整理にあてる。途中幾度か復習のみの回をもうけ、知識の定着をはかる。

週	授 業 の 内 容
1	導入と動機付け。中国語の概要、中国語を学ぶメリットとは？
2	ピンイン表記と発音（1）あいさつ表現
3	ピンイン表記と発音（2）自己紹介
4	ピンイン表記と発音（3）「これは私の本です」
5	ピンイン表記と発音の総まとめ 前半の総復習
6	「我が家は3人家族です」
7	「私は10月2日生まれです」
8	年月日、曜日の言い方 語気助詞「了」 疑問詞「多」
9	「今、12時半です」
10	時間を表す語句 連動文 完了を表す「了」 動作の持続時間
11	「我が家は東京にあります」
12	場所を表す指示代名詞 存在を表す「在」 介詞
13	「私は日本食が好きです」
14	動詞「喜歡」 部分否定を表す「不太」過去の経験を表す「過」離合詞 動詞の重ね型
15	前期のまとめ テスト前の質問タイム
16	学期末テスト

【履修上の注意事項】

中国語 I の単位が取得できなかった人は後期の中国語 II を履修できないので注意すること。

【評価方法】

学期末の試験および授業での取り組みを総合的に評価します。3分の1以上欠席した人は学期末試験を受ける資格を失いますので注意して下さい。

【テキスト】

開講時に指示します。

【参考文献】

木村英樹（1996）『中国語ははじめの一步』ちくま新書
 相原茂ほか共著（1996）『Why?にこたえる中国語のはじめての文法書』同学社
 白井恭弘 『外国語学習に成功する人、しない人』岩波科学ライブラリー 岩波書店

中国語Ⅱ

担当教員 島袋 直樹

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象 英米・産情（月木3）、法律（月木4）

【授業のねらい】

このクラスは、中国語Ⅰを履修した者あるいは同等以上の能力を有する者を対象に、聞いて話せる実用的な中国語の習得を目指す。正確な発音と声調の定着を目指すとともに、「読み」「書き」「聞く」「話す」の基礎的な学習事項を進めていく。テキスト以外にも、インターネットなどを使って中国文化への関心と理解を深めていくようにする。

【授業の展開計画】

- 第1週：発音と声調の復習
 第2週：発音と声調の復習、文法事項の復習
 第3週：文法事項の復習、第6課・・・動詞「有」、連動文、時刻や月日・曜日の言い方など。
 第4週：第6課・・・動詞「有」、連動文、時刻や月日・曜日の言い方など。
 第5週：第6課・・・動詞「有」、連動文、時刻や月日・曜日の言い方など。発音チェック。
 第6週：第6課・・・動詞「有」、連動文、時刻や月日・曜日の言い方など。発音チェック。
 第7週：第7課・・・助動詞（「要」、「想」）、前置詞、完了を表す「了」など。発音チェック。
 第8週：第7課・・・助動詞（「要」、「想」）、前置詞、完了を表す「了」など。発音チェック。
 第9週：第7課・・・助動詞（「要」、「想」）、前置詞、完了を表す「了」など。発音チェック。
 第10週：第8課・・・助動詞（「能」、「会」、「可以」）、経験を表す言い方など。発音チェック。
 第11週：第8課・・・助動詞（「能」、「会」、「可以」）、経験を表す言い方など。発音チェック。
 第12週：第8課・・・助動詞（「能」、「会」、「可以」）、経験を表す言い方など。発音チェック。
 第13週：第9課・・・前置詞、動作や持続の表現など。発音チェック。
 第14週：第9課・・・前置詞、動作や持続の表現など。発音チェック。
 第15週：第9課・・・前置詞、動作や持続の表現など。発音チェック。復習。発音チェック。
 第16週：期末テスト

【履修上の注意事項】

中国語Ⅱは中国語Ⅰを履修した者あるいは同等以上の能力を有することが登録の条件となっている。履修を希望する者は登録前に担当教員に確認すること。

発音や声調のチェック、基本文の暗誦など声を出すことが求められる。遅刻、欠席はしないこと。

指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

出席、授業態度（積極的参加、努力）、各種テスト・チェックなどを総合的に判断して評価する。

【テキスト】

『中国語ポイント42』本間史・孟広学（白帝社）
 適宜プリントを配布する。

【参考文献】

必要に応じて授業中に紹介する。

中国語Ⅱ

担当教員 兼本 敏

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象 全学科（月木5）

【授業のねらい】

中国において共通語と言われる「普通話（pu tong hua）」を習得するクラスです。中国語は声調言語と言われる発音における声調（トーン）が重要です。中国語の発音の基礎は既に習得されている学生を対象とします。ビジネスの日常での場面を想定した基本会話を習得します。

【授業の展開計画】

後期のクラスは原則として前期からの継続である。ただし、夏休み期間で中国語の定着度に個々の差がでてくる。新たな学期を自信を持ってスタートするために先ず、既習事項と定着度の確認をテストする。その結果を踏まえて個人個人の課題を与える。その他には教科書に沿って進める。

週	授 業 の 内 容
1	クラスでの重要事項の確認（目標と目的・評価と課題）。ピンインと声調の確認
2	定着度テスト 結果と課題提示
3	前期の復讐 Web問題と口頭練習
4	第八課 連動文と方向詞 発話練習
5	第九課 比較表現と感嘆表現 発話練習
6	第十課 助動詞 連動文 発話練習
7	第十課 助動詞 連動文 発話練習
8	総復習 練習 Web試験と口頭試験
9	第十一課 介詞 発話練習
10	復讐 チャレンジテスト 結果と課題
11	第十二課 補語について 発話練習
12	第十二課 補語について 発話練習
13	第十三課 受け身文 「把」構文 発話練習
14	第十四課 条件節をもつ構文
15	総復習
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

クラスでは教科書に設定された場面を演じます。
人前での発表に支障が有る者は相談に来てください。

【評価方法】

毎課、口頭の小テストがあります。
小テスト(含LL)の積み上げが成績になります。
減点対象；遅刻、欠席、携帯電話、私語。

【テキスト】

『仕事のための基礎中国語』 著；荘巖・佐藤貴子 （金星堂）

【参考文献】

自作教材：本学CALL上の問題集

中国語Ⅱ

担当教員 朱 虹

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1～4年次対象 社文（月木3）

【授業のねらい】

まず、中国語普通話の発音記号を修得し、それから教科書を中心に、中国語簡体字や文法項目を学習します。最終的に、600～700語の中国語単語と40項目の文法事項を修得した上、自己紹介や基本的な会話をマスターすることを目標とします。授業はパソコン教室でのCALLシステムを応用した授業と一般教室での授業を交替した形で行います。従来の語学学習の内容に中国語漢字の入力訓練やウェブ教材の内容を取り入れ、単語の読み書き訓練を強化し、会話の修得と共に、学習内容の幅を広げ、中国の社会や文化への理解を深めるねらいです。

【授業の展開計画】

- 1 第10課 ①存在を表す“有” ②連動文 ③月日・曜日 ④時刻の表現
- 2 第11課 動作の持続・進行表現
- 3 第12課 ①助動詞“要”“想” ②介詞“在” ③完了表現
- 4 第13課 伝聞を表す表現
- 5 第14課 ①助動詞“能、会、可以” ②経験を表す“過” ③時間量の表現
- 6 第15課 前置詞 方法を尋ねる疑問詞
- 7 第16課 ①介詞“給、对” ②動作の進行 ③動作・状態の持続
- 8 第17課 “是～的”の表現
- 9 第18課 ①結果補語 ②動作の状態や程度の表現 ③選択疑問文
- 10 第19課 ①可能補語 ②二重目的語
- 11 第20課 ①方向補語 ②“把”の構文 ③比較の表現 1
- 12 自己紹介文仕上げ
- 13 中国語検定対策1
- 14 中国語検定対策2
- 15 総復習
- 16 期末試験

【履修上の注意事項】

指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

主に中間テストや期末試験を中心に成績評価を行います。課題の提出物や出席状況および学習態度をも加味し、総合的に評価します。

【テキスト】

「例解中国語入門 ??我答」上野恵司著 白帝社

【参考文献】

「ことばの散歩道」上野恵司 白帝社

中国語Ⅱ

担当教員 車 莉莉

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象=企シ（月木3）、2～4年次対象=日文・英米・人福（月木5）

【授業のねらい】

前期に、中国語の発音記号の読み方を習ったことにより、単語や短文をある程度読めるようになったが、しかし、中国語の発音に複雑な音韻が多く、アクセントの変化も容易に把握できないため、後期に入っても、発音の間違いや、聞き取りのミスが減らず、指摘されることもしばしばある。この段階で、発音を一層強化すれば、「話せる」力に確実になると思うので、後期は、発音記号の流暢な読み書きを重要学習事項とする考えは前期と変わりはない。そのほか、文法説明による中国語文の組み立て方ももう一つの学習ポイントとして加えたい。音としての中国語に馴染んで行くうち、講師との間で会話することが期待できる。

【授業の展開計画】

授業回数：授業30回+テスト1回 授業内容： 発音、語彙、文法
 第1回～（1週目） 第一課～第七課 発音記号の書き読み、本文内容の復習
 第2～5回（2～3週目） 第八課 《我喜歡吃日本菜》
 第6～8回（3～4週目） 第九課 《北京的冬比東京冷》
 第9～11回（5～6週目） 第十課 《我想和老師一起去中国》
 第12（6週目） まとめ 小テスト
 第13～15回（7～8週目） 第十一課 《我也想進去看看》
 第16～18回（8～9週目） 第十二課 《我正在做中国菜》
 第19～21回（10～11週目） 第十三課 《Zhe句話我不会翻譯》
 第22回（11週目） まとめ 小テスト
 第23～25回（12～13週目） 第十四課 《請把作業交上来》
 第26～28回（13～14週目） 第十五課 《往左拐一直走就到》
 第29～30回（14～15週目） 第十六課 《快要考試了》
 第31回 期末テスト

- * 1. 上記の計画はその学年に行われるイベントや臨時日程変更などにより、ずれが発生することもあるので、ご了承ください。
- * 2. 本計画表に反映されていない映像資料の使用も含まれる、ラボ教室の利用など諸状況が確定してから、実施日を知らせる。

【履修上の注意事項】

中国語に興味や関心を持ち、それを知るために、積極的に取り組む学生の登録を歓迎する。学科指定があるので、登録時によく確認してください。

【評価方法】

練習、小テスト、授業態度、出席、期末テストを総合して評価します。

【テキスト】

『老師好！－王先生との出会い』－郁文堂

【参考文献】

中国語辞書を各自に準備してください。

中国語Ⅱ

担当教員 張 維 真

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 2～4年次対象 法律・地行・経済・環政・企シ・産情（火金2）

【授業のねらい】

中国語の履修者の中には、会話力をしっかりと身に付けたいと思っている学生が多くいます。授業では、特に発音や声調の指導に注意をはらいながら、教科書の中の基礎構文を理解し、簡単な作文力そして基礎的な会話力のアップをはかる。

【授業の展開計画】

1. 発音の復習
2. 発音の復習とチェック
3. 中国語の歌を紹介し、覚えてもらう
4. 第八課の内容説明と発音チェック
5. 第八課の読み練習と発音チェック
6. 第九課の内容説明と発音チェック
7. 筆記テスト、中華料理の紹介
8. 第九課の読み練習と発音チェック
9. 第十課の内容説明と発音チェック
10. DVDで中国を知る
11. 第十課の読み練習と発音チェック
12. 第十一課の内容説明と発音チェック
13. 第十一課の読み練習と発音チェック
14. 第十二の内容説明と発音チェック
15. チームで中国語の劇を作る
16. 劇の発表と講評
17. 第十二課の読み練習と発音チェック
18. 筆記テスト、第十三課に入る
19. 第十三課の内容説明と発音チェック
20. 筆記テスト、第十四課の読み練習と発音チェック
21. 第十四課の内容説明と発音チェック
22. 第十五課の読み練習と発音チェック
23. 第十五課の内容説明と発音チェック
24. 第十六課の読み練習と発音チェック
25. 第十六課の内容説明と発音チェック
26. 作文練習
27. 作文練習
28. 期末テスト前の総合復習
29. 期末テスト前の総合復習
30. 期末テスト前の総合復習
31. 期末テスト

【履修上の注意事項】

出席率を重視します。語学学習は継続的な教師による直接指導が大事です。中国語Ⅱでも、学生の発音と声調がしっかりとできているのか確認しながら、授業をおこないます。発音や声調をマスターできていない学生に対しては、その矯正を行います。また、簡単な作文力そして基礎的な会話力のアップをはかるために、教科書の中の単語や重要構文も一部暗記してもらわなければなりません。100%の出席をめざしてください。

【評価方法】

毎課の終了時に理解度チェックを行います。評価はそうしたチェックや筆記テスト及び授業態度・出席率を加味して行います。

【テキスト】

「老師好！（王先生との出会い）」守屋 宏則等著 郁文堂

【参考文献】

相原茂『中国語学習ハンドブック』大修館書店

中国語Ⅱ

担当教員 金田 知子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象 日文（月木3）、人福（月木4）

【授業のねらい】

本授業では、発音を中心に、音読練習をすることによって、中国語の発音特徴を掴み、単語の聞き取りが出来ることを目標とする。また、基本的な文法項目を理解し、簡単な会話や自己紹介などができることを目指す。初めて中国語を学ぶ人でも楽しめるレッスンであるように心がけ、講義を進めながら、中国人のものの考え方、生活習慣、21世紀で激変している中国の様々な事情も紹介する。

【授業の展開計画】

*習熟度により多少変更あり。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	前期の復習Ⅰ	17	小テスト
2	前期の復習Ⅱ	18	テキスト第13課
3	テキスト第8課	19	練習
4	練習	20	小テスト
5	小テスト	21	テキスト第14課
6	テキスト第9課	22	練習
7	練習	23	小テスト
8	小テスト	24	テキスト第15課
9	テキスト第10課	25	練習
10	練習	26	小テスト
11	小テスト	27	テキスト第16課
12	テキスト第11課	28	練習
13	練習	29	小テスト
14	小テスト	30	総復習
15	テキスト第12課	31	期末試験
16	練習		

【履修上の注意事項】

- ①中国語を学ぶ第一歩は発音である。発音を正確にできるためには、声を出すことが要求される。
- ②毎課ごとに小テストがある。
- ③遅刻、授業中の携帯電話の使用、私語等が禁じられる。
- ④原則として追試験、再試験は実施しない。
指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

成績は期末試験に50%、小テストに30%および出席状況に20%の割合で評価を行う。

【テキスト】

『老師好！』一王先生との出会いー 守屋宏則／陳 浩／梁 月軍 著 郁文堂

【参考文献】

『北京の街角で』（本校CALL教室）

中国語Ⅱ

担当教員 田添 暢彦

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象 経済・環政（月木3）、地行（月木4）

【授業のねらい】

前期に習得した事項を確認しながら、中国語を読み、書き、話し、聞く能力の向上をはかる。現代中国事情にも可能な限り触れ、最終的に受講者がそれぞれの専攻に関連する事柄を辞書を引きながら独力で調べられるようになることを目指す。

【授業の展開計画】

週2回の授業のうち以下にカギ括弧を付した「基本フレーズ」を中心とした会話練習と文法項目の整理を交互に行う。途中幾度か復習のみの授業をもうけ知識の定着をはかる。

週	授 業 の 内 容
1	前期の復習
2	「北京の冬は東京より寒い」
3	「私たちは先生と一緒に中国に行きたい」
4	動作の回数 動詞「打算」 助動詞「想」 「どこ」を表す表現
5	「私も入って見てみたい」
6	方向補語（1） 「是不是」の疑問文 兼語文に用いられる「請」 など
7	「私は中華料理を作っています」
8	動作の進行の表し方 動詞+給 結果補語など
9	前半のまとめ
10	「このフレーズが翻訳できない」
11	可能を表す助動詞 方向詞 「行不行」「一下」など
12	「宿題を提出してください」
13	「把」文型 方向補語（2）助動詞「要」
14	「左に曲がってまっすぐ行けばつきます」
15	「もうすぐテストです」
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

前期に中国語Ⅰの単位を認定されなかった人は後期の中国語Ⅱを履修できないので注意してください。

【評価方法】

学期末の試験に加え、平生の授業への取り組みを総合的に評価します

【テキスト】

前期に使用したテキストを継続して使用します

【参考文献】

木村英樹（1996）『中国語ははじめの一步』ちくま新書
 相原茂・石田知子・戸沼市子 共著（1996）『Why?にこたえる はじめての 中国語の文法書』 同学社
 白井恭弘 『外国語学習に成功する人、しない人』岩波科学ライブラリー 岩波書店

中国語Ⅲ

担当教員 朱 虹

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 2～4年次対象 全学科（火金2）

【授業のねらい】

本講義は一年間基礎中国語を履修した後、初秋段階での文法項目を復習しながら、言語や文化学習を深めながら中国語会話の応用力をつける。

【授業の展開計画】

本講義は週二回の講義形態で、15週（30回）＋学期末試験（1回）により構成される。下記の文法項目の学習を交えながら15場面の会話をマスターしていく。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	“把” “□” “差点儿”	17	会話：パンダ
2	“从…到…” “离” “着”	18	“□…了” “按” “几乎” “□怪”
3	会話：買い物	19	即使…也” “就是…也”
4	“可以” “□” “怪不得”	20	会話：遊園地
5	“越…越…” “来得及/来不及”	21	“关于” “于是” “尽管但是”
6	会話：趣味の表現	22	“只有…才” “不是…就是”
7	“什么” “从来” “一直”	23	会話：祝祭日
8	“会/不会” “□” “□了”	24	“不□” “不光” “□…都…”
9	会話：余暇	25	“一向” “□究” “宁可…也不…”
10	“太” “以后” “□”	26	会話：文化
11	補語の復習	27	自己紹介文の作成
12	副詞の復習 “看起来” 形容詞＋動詞	28	中国語検定対策
13	会話：食事	29	中国語スピーチコンテスト指導
14	複文 “可” “尤其” “□直”	30	自己紹介の発表
15	“好像” “有关” “如” “其□”	31	期末試験
16	“地” “另外” “便于”		

【履修上の注意事項】

中国語1・2が履修済みであること。

中国語スピーチコンテストに参加するための訓練を行う。

【評価方法】

主に学期末の期末試験の成績を基準に成績評価を行うが、中国語スピーチコンテストの取り組みや諸課題の提出状況、さらに、出席状況、学習態度なども加味する。

【テキスト】

「標準中国語 応用会話編」上野恵司監修 曹元春著 白帝社

【参考文献】

「ことばの散歩道」上野恵司著 白帝社

中国語Ⅳ

担当教員 朱 虹

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 2～4年次対象 全学科（火金2）

【授業のねらい】

本講義は一年間基礎中国語を履修した後、初秋段階での文法項目を復習しながら、言語や文化学習を深めながら中国語会話の応用力をつける。

【授業の展開計画】

本講義は週二回の講義形態で、15週（30回）＋学期末試験（1回）により構成される。下記の文法項目の学習を交えながら15場面の会話をマスターしていく。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	中国語スピーチコンテスト指導	17	会話：私の計画
2	中国語スピーチコンテスト指導	18	会話：仕事について
3	中国語スピーチコンテスト指導	19	会話：異文化について
4	発音総仕上げ	20	会話：中国と日本の食文化について
5	動詞述語文の復習	21	会話：飲茶について
6	応用練習	22	会話：中国と日本の結婚式
7	形容詞述語文の復習	23	会話：中国と日本の大学生
8	応用練習	24	会話：中国と日本の祝祭日
9	対の言葉、形容詞の対義語	25	会話：中国と日本の教育
10	単文の復習	26	会話：中国人と日本の人生儀式
11	応用練習	27	中国語検定対策
12	複文の復習	28	中国語検定対策
13	応用練習	29	自己紹介文の作成
14	補語の種類	30	自己紹介の発表
15	応用練習	31	期末試験
16	会話：私の夢		

【履修上の注意事項】

中国語1・2が履修済みであること。
中国語スピーチコンテストに参加するための訓練を行う。

【評価方法】

主に学期末の期末試験の成績を基準に成績評価を行うが、中国語スピーチコンテストの取り組みや諸課題の提出状況、さらに、出席状況、学習態度なども加味する。

【テキスト】

「標準中国語 応用会話編」上野恵司監修 曹元春著 白帝社

【参考文献】

「ことばの散歩道」上野恵司著 白帝社

ドイツ語 I

担当教員 漆谷克秀（法律・地行=月木4）、坂口民子（日文・社文=月木3）、クラウス フランケ（経済・環政・企シ・産情・英米=月木3、人福=月木4）、東江貴子（2～4年全学=火金2）

対象学年 1年

開講時期 前期

単位区分 選択

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象=漆谷克秀・坂口民子・クラウス フランケ、 2～4年次対象=東江貴子

【授業のねらい】

この授業は、現代口語ドイツ語をはじめて学習する学生を対象としています。テキストの目指すところは、自分の日常生活をドイツ語で表現できるようになることです。「聞く」「話す」という自己表現を念頭においた口頭による練習が中心になります。声を出して練習しますので、間違っても発音してしまえだと思って、声を出してください。

【授業の展開計画】

- 1週： 担当者の自己紹介 授業に関するガイダンス、Das Alphabet
 2週： 発音のポイント、あいさつ
 3週： Lektion 1 Markt 動詞のしくみ、動詞の現在人称変化：規則動詞
 4週： Lektion 1 ドイツ語の人称代名詞、人称語尾
 5週： Lektion 2 Bier und Wein seinとhabenの人称変化
 6週： Lektion 2 seinのhabenの使い方、müchteの使い方
 7週： Lektion 3 Drinnen und draußen wissenの使い方 動詞wissen
 8週： Lektion 3 möchte, wie+形容詞で作る疑問視
 9週： Lektion 4 Sehenswürdigkeiten fahrenの現在人称変化
 10週： Lektion 4 主語が二人称・三人称単数の時に母音が変化する動詞、命令文の作り方
 11週： Lektion 5 In der Stadt 動詞の語幹の中の母音e→ieに変わる動詞
 12週： Lektion 5 Sprechen, gebenとnehmenの現在人称変化 この場合のduに対する命令形
 13週： Lektion 6 Alte Städte 助動詞のkönnen現在人称変化
 14週： Lektion 6 主語が一人称と三人称の場合 助動詞の使い方
 15週： Lektion 6 よく使う助動詞
 6週： 期末試験

1

【履修上の注意事項】

『独和辞典』を持って出席すること。
 発音になれるため、授業の前にテキストについているCDを聞いておいてください。
 登録上限数を上回った場合、担当教員の間で調整します。
 指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

出席と課題、試験で評価する。

【テキスト】

『ドイツ・サラダ』（朝日出版社）

【参考文献】

ドイツ語Ⅱ

担当教員 漆谷克秀（法律・地行=月木4）、坂口民子（日文・社文=月木3）、クラウス フランケ（経済・環政・企シ・産情・英米=月木3、人福=月木4）、東江貴子（2～4年全学=火金2）

対象学年 1年

開講時期 後期

単位区分 選択

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象=漆谷克秀・坂口民子・クラウス フランケ、 2～4年次対象=東江貴子

【授業のねらい】

『ドイツ語Ⅰ』で学習した内容をふまえ、さらに、文法事項の習得と、口頭による自己表現の練習をする。

【授業の展開計画】

- 1週： 授業のガイダンス、Lektion7 Brot 分離動詞のしくみ 分離動詞とは
 2週： Lektion7 離れる場合：前綴りは文末
 3週： Lektion7 離れない場合
 4週： Lektion8 所有冠詞 所有冠詞とは、種類
 5週： Lektion8 所有冠詞の語尾変化
 6週： Lektion9 Berlin 現在完了形 現在完了形とは seinを完了助動詞として使う場合
 7週： Lektion9 過去分詞の形
 8週： Lektion10 Kulturvielfalt 現在完了形 haben支配の動詞と過去分詞 habenを使って完了形を作る場合
 9週： Lektion10 規則的な過去分詞の作り方 不規則な過去分詞の作り方 中間試験
 10週： Lektion10 過去分詞にge-がつかない動詞
 11週： Lektion11 Weinachten 前置詞 前置詞の意味
 12週： Lektion11 3・4格支配の前置詞が3格をとる場合、
 13週： Lektion12 4格をとる場合
 14週： Lektion12 3格支配の前置詞 4格支配の前置詞
 15週： 文法コーナー 文法のまとめ 16週 期末試験

【履修上の注意事項】

『独和辞典』を持って出席すること。
 発音になれるため、授業の前にテキストについているCDを聞いておいてください。
 登録上限数を上回った場合、担当教員の間で調整します。
 指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

出席と課題、試験で評価する。

【テキスト】

『ドイツ・サラダ』（朝日出版社）

【参考文献】

ドイツ語Ⅲ

担当教員 漆谷 克秀

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 2～4年次対象 全学科（火金2）

【授業のねらい】

初級ドイツ語を履修した学生を対象とします。最初にドイツ語Ⅰ・Ⅱで教えられていない文法事項を学習します。そのあと、週二回の校時がありますので、ひとつの校時はドイツ語Ⅰ・Ⅱの復習もかねて『ハウルの動く城』の講読にあてます。もうひとつの校時は「ヨーロッパ共通参照枠」のA1の教科書を使います。外国人がドイツで生活をするための最初の段階のドイツ語を会話練習中心に学びます。ヨーロッパの文化歴史などに関するビデオを鑑賞する機会も持つ予定です。

【授業の展開計画】

- 1週： 授業のガイダンス、 形容詞の格変化
 2週： 人称代名詞、 再帰表現(再帰動詞、再帰代名詞)
 3週： 熟語動詞、ZU不定詞、受動態
 4週： 関係文(関係代名詞、関係副詞)、比較表現
 5週： 接続法(第1式、第2式)
 6週： “Das wandelnde Schloss” Teil 1、 “studio d A1” Start auf Deutsch
 7週： “Das wandelnde Schloss” Teil 1、 “studio d A1” Start auf Deutsch
 8週： “Das wandelnde Schloss” Teil 1、 “studio d A1” Start auf Deutsch
 9週： “Das wandelnde Schloss” Teil 1、 “studio d A1” Einheit 1 Cafe d
 10週： “Das wandelnde Schloss” Teil 1、 “studio d A1” Einheit 1
 11週： “Das wandelnde Schloss” Teil 1、 “studio d A1” Einheit 1
 12週： “Das wandelnde Schloss” Teil 2、 “studio d A1” Einheit 1
 13週： “Das wandelnde Schloss” Teil 2、 “studio d A1” Einheit 2 Im Sprachkurs
 14週： “Das wandelnde Schloss” Teil 2、 “studio d A1” Einheit 2
 15週： “Das wandelnde Schloss” Teil 2、 “studio d A1” Einheit 2
 16週： 期末テスト

【履修上の注意事項】

辞書を持ってくること。ドイツに限らず、ヨーロッパの事柄に関心を持つようにしてください。

【評価方法】

出席と仕事の量で評価します。出席することはそれだけ仕事をするようになります。また、復習したことを確認する程度のテストをします。

【テキスト】

Hayao Misazaki : “Das wandelnde Schloss” Teil 1— 4, (Calsen Verlag)
 “studio d A1” (プリントを配布します)

【参考文献】

ドイツ語Ⅳ

担当教員 漆谷 克秀

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 2～4年次対象 全学科（火金2）

【授業のねらい】

ドイツ語Ⅲを受けて授業を行います。講読ではドイツ語をただ訳すというだけではなく、原文の日本語がどのようなものか考えながら訳すようにします。発音にあたって、感情が表現できるように努力していきます。

【授業の展開計画】

- 1週： 授業のガイダンス、
- 2週： "Das wandelnde Schloss" Teil 2, "studio d A1" Einheit 3 Städte-Länder-Sprachen
- 3週： "Das wandelnde Schloss" Teil 2, "studio d A1" Einheit 3
- 4週： "Das wandelnde Schloss" Teil 3, "studio d A1" Einheit 3
- 5週： "Das wandelnde Schloss" Teil 3, "studio d A1" Einheit 3
- 6週： "Das wandelnde Schloss" Teil 3, "studio d A1" Einheit 4 Menschen und Häuser
- 7週： "Das wandelnde Schloss" Teil 3, "studio d A1" Einheit 4
- 8週： "Das wandelnde Schloss" Teil 3, "studio d A1" Einheit 4
- 9週： "Das wandelnde Schloss" Teil 3, "Studio d A1" Einheit 4
- 10週： "Das wandelnde Schloss" Teil 4, "studio d A1" Station 1 Berufsbilder
- 11週： "Das wandelnde Schloss" Teil 4, "studio d A1" Station 1
- 12週： "Das wandelnde Schloss" Teil 4, "studio d A1" Einheit 5 Termine
- 13週： "Das wandelnde Schloss" Teil 4, "studio d A1" Einheit 5
- 14週： "Das wandelnde Schloss" Teil 4, "studio d A1" Einheit 5
- 15週： "Das wandelnde Schloss" Teil 4, "studio d A1" Einheit 5
- 16週： 期末テスト

【履修上の注意事項】

辞書を持ってくること。ドイツに限らず、ヨーロッパの事柄に関心を持つようにしてください。

【評価方法】

出席と仕事の量で評価します。出席することはそれだけ仕事をするようになります。また、復習したことを確認する程度のテストをします。

【テキスト】

Hayao Misazaki : "Das wandelnde Schloss" Teil 1～4, (Calsen Verlag)
"studio d A1" (プリントを配布します)

【参考文献】

フランス語 I

担当教員 大下 祥枝

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象 英米・社文（月木3）

【授業のねらい】

フランス語を「話す」、「聞く」、「読む」、「書く」という4つの力を、初級の段階から、総合的に養成する試みとして編纂されたテキストを使用します。CDやビデオを使用しながら、反復練習に重点をおいた授業となります。フランス語の背景にある文化や芸術に関するビデオの鑑賞時間も入れる予定です。I・IIの授業でフランス語に興味を持ち、さらにIII・IVで初級文法事項の全てを終えようとする意欲が持続することを目標にしています。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	フランス語について
2	綴り字の読み方の基本
3	綴り字の読み方の基本
4	自己紹介
5	不定冠詞と定冠詞
6	名詞の性と数
7	主語人称代名詞
8	動詞の活用形（1）
9	前期前半の復習と中間テスト
10	肯定文の作り方
11	疑問文の作り方
12	否定文の作り方
13	国籍などの表現
14	複数形の作り方、動詞の活用形（2）
15	年齢などの表現
16	前期の全体的な復習と期末テスト

【履修上の注意事項】

『仏和辞典』を毎時間クラスに持参して、単語の検索に慣れるようにすること。CDやテープを繰り返し聞き、正確なフランス語の発音ができるように努めてください。指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

授業中の態度、レポートの内容、テスト（中間と期末）の結果などを総合的に判断して、成績を評価します。テスト実施日迄にレポートを提出していない受講生は、テストを受ける資格をなくします。

【テキスト】

澤田 直之、リリアンヌ・ラタンジオ、黒川 学 著『アミカルマン—フランス語・フランス文化への誘い』
[CD付改訂版]（駿河台出版社）

【参考文献】

辞典：多田 道太郎 編『クラウン仏和辞典』（三省堂）

フランス語 I

担当教員 金城 豪

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象 経済・環政・企シ・産情・日文（月木3）

【授業のねらい】

フランス語の初心者を対象とします。アルファベットと発音の基礎から始め、当言語を理解するために必要な文法事項を解説していくと共に、反復練習を行います。「読む」「書く」「聞く」「話す」という4つの力を総合的に養成することを目標とします。フランスへのより深い理解と、興味を高めるために、フランスやフランス語圏の文化・芸術・音楽の紹介、映画鑑賞等を予定しています。

【授業の展開計画】

テキストの第0課～第3課に対応

- 第1週 フランスとフランス語に親しむ
- 第2週 文字と発音
- 第3週 文字と発音
- 第4週 挨拶
- 第5週 自己紹介
- 第6週 主語人称代名詞
- 第7週 名詞の性と数・不定冠詞
- 第8週 動詞の活用I(etre)
- 第9週 数字
- 第10週 動詞の活用II (avoir)
- 第11週 形容詞の女性形と複数形・定冠詞
- 第12週 人称代名詞の強勢形・否定文
- 第13週 動詞の活用III (-er動詞)
- 第14週 指示形容詞・所有形容詞
- 第15週 前期の復習とまとめ
- 第16週 期末試験

【履修上の注意事項】

仏和辞典を持参すること。電子辞書可。

語学は繰り返し根気強く学習することが必要です。毎回積極的に授業に参加すること。
指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

出席状況・授業態度・レポート・試験を総合的に評価します。

【テキスト】

澤田直之、リリアンヌ・ラタンジオ、黒川学著『アミカルマンーフランス語・フランス文化への誘いー』、駿河台出版社（改訂版・CD付）

【参考文献】

辞典：多田道太郎編『クラウン仏和辞典』（三省堂）

フランス語 I

担当教員 上江洲 律子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象 法律・人福（月木4）、2～4年次対象 全学科（月木5）

【授業のねらい】

初めて学ぶ「言語」としてのフランス語、その音に慣れることから始め、現実的な状況に即した表現を通して、文の仕組みと発音を学びながら、「読む」「書く」「聞く」「話す」力を総合的に身につけることを目標とします。そのため、筆記形式の問題練習と同時に、CDやDVD教材を使った会話の聞き取りや、その暗唱にも取り組みます。また、フランス的なものに触れ、知る機会として、生活習慣や行事の他、音楽や映画、文学等の文化紹介も行います。

【授業の展開計画】

フランス語の a b c から、日常の挨拶、自分自身や自分以外の人について話すための表現（自己紹介及び他者紹介）を学びます。

※テキストの第0課～3課対応

1～2 週目（1～4 回目）：ガイドランス・フランス語の a b c

3～4 週目（5～8 回目）：挨拶

5～6 週目（9～12 回目）：自己紹介

7～8 週目（13～16回目）：人物紹介（1）

9～10 週目（17～20回目）：人物紹介（2）

11～12週目（21～24回目）：郵便局での表現

13～14週目（25～28回目）：服装や食事に関する表現

15 週目（29～30回目）：まとめと試験 31回目：試験のフィードバック

【履修上の注意事項】

言葉は、強い興味と意志を持ち、繰り返し練習することでしか習得できないものです。授業では、全体練習やペア練習、ペアでの発表を行う等、積極的な取り組みを要望しますが、授業外でも各自練習を積み重ねる心構えで臨んで下さい。フランス語を実際に身につけることを目指しましょう。

指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

授業目標の達成度を確認するために、筆記形式による文法試験（「読む」「書く」力の確認）と、暗唱形式による発音試験（「聞く」「話す」力の確認）を実施します。また、語学において、授業に参加し、その中で練習を繰り返すことは必要不可欠なことです。出席を推進し、かつ、その努力を評価するために、出席状況を得点化し、前述の二つの試験結果に加え、総合的に評価します。

●計算式＝文法試験の得点（35％）＋発音試験の平均得点（35％）＋出席の得点（30％）

【テキスト】

●澤田直之、リアンヌ・ラタンジオ、黒川学著『アミカルマン』、駿河台出版社（改訂版・CD付）

●『プチ・ロワイヤル仏和辞典』、旺文社（CD付）

【参考文献】

田島宏編『コレクション・フランス語』、白水社（①入門②初級③文法、各CD付）

森本英夫、三野博司著『新・リュミエールフランス文法参考書ー』、駿河台出版社（別売りCD）

フランス語 I

担当教員 西森 和広

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 2～4年次対象 法律・地行・経済・環政・企シ・産情（火金2）

【授業のねらい】

フランス語に初めて接する学生を対象にした、初歩のフランス語クラスである。アルファベットと発音の基礎から始めて、日常の基本的な会話表現の修得を目指す。

基本的な文法事項の理解を得るための応用問題をこなす一方、学生間の模擬会話練習を頻繁に行い、演技を通して実践的表現に至るという「メソッド」を採用して、毎回繰り返し練習を行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション	17	2の2：人物紹介
2	0課：アルファベ	18	否定文、数字
3	綴り字、発音の基本	19	練習問題
4	発音の基本（続き）、挨拶表現	20	練習問題（続き）
5	1の1：パン屋の対話	21	3の1：郵便局
6	冠詞、名詞の性と数など	22	指示形容詞、第1群規則動詞
7	練習問題	23	練習問題
8	練習問題（続き）	24	練習問題（続き）
9	1の2：出会い	25	3の2：市場
10	主語代名詞、存在の動詞、前置詞と定冠詞	26	第2群規則動詞、所有形容詞、部分冠詞
11	練習問題	27	練習問題
12	練習問題（続き）	28	練習問題（続き）
13	2の1：電話	29	予備日
14	所有の動詞、形容詞、人称代名詞強勢形	30	期末テスト
15	練習問題	31	期末テストの返却と復習
16	練習問題（続き）		

【履修上の注意事項】

指定学科の2年生以上を対象とする。

【評価方法】

宿題や課題への積極的取り組み（50%）、期末テスト（50%）

【テキスト】

『アミカルマン』（改訂版・CD付き）澤田直之ほか著（駿河台出版社）

【参考文献】

講義時に適宜指示する。

フランス語 I

担当教員 宮里 厚子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象 地行・人福（月木4）

【授業のねらい】

フランス語に慣れ親しみ、あいさつや自己紹介など基本的な会話表現の習得を目指します。そのために、授業ではまず発音のルールを学んだあと、教科書に沿って会話の反復練習や文法理解のための練習問題に取り組んでいきます。また授業では、フランスの伝統・習慣・現代事情などの紹介を通して、フランスやフランス語圏の文化やフランス人の考え方等に対する理解を深めることもねらいとします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	第 1 週 オリエンテーション / Unite 0 フランス語の基礎知識
2	第 2 週 Unite 0 発音のルールについて
3	第 3 週 Unite 1.1 あいさつをする
4	第 4 週 Unite 1.1 フランス語の名詞について / 不定冠詞と定冠詞
5	第 5 週 Unite 1.1 「これは何ですか？」
6	第 6 週 Unite 1.2 親しい人とのあいさつ / フランス語の文章について
7	第 7 週 Unite 1.2 職業・国籍をいう
8	第 8 週 Unite 1.2 定冠詞の縮約 / 単元テスト
9	第 9 週 Unite 2.1 疑問文
10	第10週 Unite 2.1 形容詞の使い方
11	第11週 Unite 2.1 人を描写する
12	第12週 Unite 2.2 否定文
13	第13週 Unite 2.2 冠詞のまとめ
14	第14週 Unite 2.2 自己紹介・人物描写のまとめ
15	第15週 まとめ
16	第16週 期末試験

【履修上の注意事項】

教科書にはCDが付いていますので、授業以外でも自分でCDを聴きフランス語の音に慣れるようにしてください。

【評価方法】

試験、課題、授業への参加姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

『Amicalement bis (アミカルマン・ビス)』 澤田直之 他 著 (駿河台出版社)

【参考文献】

各種辞書

フランス語Ⅱ

担当教員 金城 豪

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象 経済・環政・企シ・産情・日文（月木3）

【授業のねらい】

前期に引き続き、フランス語の基礎を学んでいきます。フランス語Ⅰと同じテキストを使用します。ビデオやCDなどの視聴覚教材を用いながら、日常会話やよく使われる表現を繰り返し練習します。フランス語Ⅲ、Ⅳに進むための確実な文法力を身につけることを目標とします。また文部科学省認定実用フランス語検定試験4～5級取得を目指します。

【授業の展開計画】

テキストの第4課～第6課に対応

- 第1週 前期の復習
- 第2週 部分冠詞・疑問文の作り方
- 第3週 天候・季節の表現（非人称構文）
- 第4週 動詞の活用(-ir動詞)
- 第5週 動詞aller と venir の用法
- 第6週 前置詞deとa の用法
- 第7週 比較の表現
- 第8週 補語人称代名詞
- 第9週 可能・欲求・義務の表現
- 第10週 疑問形容詞
- 第11週 依頼・命令の表現
- 第12週 代名動詞の用法
- 第13週 空間の表現（前置詞）
- 第14週 食事の表現（語彙・文化紹介）
- 第15週 後期の復習とまとめ
- 第16週 期末試験

【履修上の注意事項】

フランス語Ⅰを履修済みであること。または同等の力を有していること。

仏和辞典を毎回持参すること。電子辞書可。

語学は繰り返し根気強く学習することが必要です。毎回積極的に授業に参加すること。指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

出席状況・授業態度・レポート・試験を総合的に評価します。

【テキスト】

澤田直之、リリアンヌ・ラタンジオ、黒川学著『アミカルマンーフランス語・フランス文化への誘いー』、駿河台出版社（改訂版・CD付）

【参考文献】

辞典：多田道太郎編『クラウン仏和辞典』（三省堂）

フランス語Ⅱ

担当教員 西森 和広

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 2～4年次対象 法律・地行・経済・環政・企シ・産情（火金2）

【授業のねらい】

前期「フランス語Ⅰ」の継続。初歩のフランス語の力を付けてゆく。発音と基本的な文型を身に付けてゆくために、日常会話などで用いられる表現の反復練習、応用問題を解くといった訓練を、「メソッド」を応用して積み重ねてゆく。

【授業の展開計画】

以下の予定だが、受講生の理解度により進度に変更もある。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、前期の復習	17	練習問題
2	前期の復習（続き）	18	練習問題（続き）
3	4課の1：対話「タクシー」	19	6課の1：対話「柔道チャンピオン」
4	移動の動詞と近い未来と過去の表現、天気	20	代名動詞
5	練習問題	21	練習問題
6	練習問題（続き）	22	練習問題（続き）
7	4課の2：対話「タクシー（続き）」	23	6課の2：対話「スポーツクラブ」
8	道案内、命令表現、時間と序数	24	「できる、つもり、ねばならない」の表現
9	練習問題	25	練習問題
10	練習問題（続き）	26	練習問題（続き）
11	5課の1：対話「レストラン」	27	後期のまとめ
12	直接目的語の代名詞、比較表現	28	フランスの諸文化について
13	練習問題	29	予備日
14	練習問題（続き）	30	期末テスト
15	5課の2：対話「レストラン（続き）」	31	期末テストの講評と復習
16	間接目的語の代名詞、最上級の表現		

【履修上の注意事項】

「フランス語Ⅰ」を履修していること。

【評価方法】

課題と宿題への積極的取り組み(50%)、期末テスト(50%)。

【テキスト】

『アミカルマン』（改訂版・CD付き）澤田直之ほか著（駿河台出版社）

【参考文献】

講義時に適宜指示する。

フランス語Ⅱ

担当教員 上江洲 律子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象 法律・人福（月木4）、2～4年次対象 全学科（月木5）

【授業のねらい】

前期に引き続き、フランス語を「読む」「書く」「聞く」「話す」力を総合的に身につけることを目標とし、日常生活に見られる会話表現を通して、文の仕組みの把握や、発音の習得に取り組みます。また、抜粋された文章の読み取りや作文、映画や音楽を使った書き取り等を行い、フランス文化に触れながらフランス語の実践力を高め、フランス語検定試験の受験や、中級クラス(フランス語Ⅲ・Ⅳ)への進級の橋渡しとなる授業を目指します。

【授業の展開計画】

前期で学んだことを踏まえ、タクシーやレストラン、スポーツクラブでの会話を通して、時や場所を示す表現を始め、料理やスポーツに関する語彙や日常の基本的な行動に関わる表現を学びます。

※テキストの第4課～6課対応

1～2 週目 (1～4 回目) : ガイダンス・前期の復習

3～4 週目 (5～8 回目) : 場所や天候の表現

5～6 週目 (9～12 回目) : 道順や時間の表現

7～8 週目 (13～16回目) : 比較表現 (1)

9～10 週目 (17～20回目) : 比較表現 (2)

11～12週目 (21～24回目) : 一週間の行動に関する表現

13～14週目 (25～28回目) : 事務手続きに関する表現

15 週目 (29～30回目) : まとめと試験 31回目 : 試験のフィードバック

【履修上の注意事項】

フランス語Ⅰを履修済みであること、または、その実力を有することが履修の必要条件となります。指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

前期同様、筆記形式による文法試験(「読む」「書く」力の確認)と、暗唱形式による発音試験(「聞く」「話す」力の確認)の結果に、出席得点を加味し、総合的に評価します。

●計算式＝文法試験の得点(35%)＋発音試験の平均得点(35%)＋出席の得点(30%)

【テキスト】

- 澤田直之、リリアンヌ・ラタンジオ、黒川学著『アミカルマン』、駿河台出版社(改訂版・CD付)
- 『プチ・ロワイヤル仏和辞典』、旺文社(CD付)

【参考文献】

田島宏編『コレクション・フランス語』、白水社(①入門②初級③文法、各CD付)
森本英夫、三野博司著『新・リュミエールフランス文法参考書一』、駿河台出版社(別売りCD)

フランス語Ⅱ

担当教員 宮里 厚子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象 地行・人福（月木4）

【授業のねらい】

「フランス語Ⅰ」ではあいさつや自己紹介・人物描写をおもに勉強しましたが、「フランス語Ⅱ」ではより多くの動詞や疑問文の形を学習することにより、さまざまな状況に対応する会話を身につけることを目的とします。日常生活だけでなく、旅行にも使えるような表現等も学習します。また前期に引き続き、フランスやフランス語圏の文化に対する理解を深めることも目指します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	第1週 オリエンテーション / フランス語Ⅰの復習
2	第2週 Unite 3.1 第1群規則動詞の活用
3	第3週 Unite 3.1 「いつ?」「どこ?」
4	第4週 Unite 3.1 数字と指示形容詞
5	第5週 Unite 3.1 第1群規則動詞の応用
6	第6週 Unite 3.2 第2群規則動詞と所有形容詞
7	第7週 Unite 3.2 衣服について話す
8	第8週 Unite 3.2 部分冠詞と冠詞のまとめ
9	第9週 Unite 4.1 動詞「行く」「来る」「する・作る」
10	第10週 Unite 4.1 天気をいう
11	第11週 Unite 4.1 近い未来と近い過去
12	第12週 Unite 4.2 命令法
13	第13週 Unite 4.2 時間をいう
14	第14週 Unite 4.2 道案内をする / 序数
15	第15週 まとめ
16	第16週 期末試験

【履修上の注意事項】

前期と引き続き同じ教科書を使います。

【評価方法】

試験、課題、授業への参加姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

『Amicalement bis (アミカルマン・ビス)』 澤田直之 他 著 (駿河台出版社)

【参考文献】

各種辞書

フランス語Ⅱ

担当教員 大下 祥枝

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 1年次対象 英米・社文（月木3）

【授業のねらい】

フランス語を「話す」、「聞く」、「読む」、「書く」という4つの力を、初級の段階から、総合的に養成する試みとして編纂されたテキストを使用します。CDやビデオを使用しながら、反復練習に重点をおいた授業となります。フランス語の背景にある文化や芸術に関するビデオの鑑賞時間も入れる予定です。Ⅰ・Ⅱの授業でフランス語に興味を持ち、さらにⅢ・Ⅳで初級文法事項の全てを終えようとする意欲が持続することを目標にしています。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	第一群規則動詞の活用形
2	住所、値段の表現
3	指示形容詞
4	第二群規則動詞の活用形
5	疑問詞のまとめ
6	所有形容詞
7	服装、文具に関する表現
8	部分冠詞
9	後期前半の復習と中間テスト
10	allerの活用形
11	venirの活用形
12	近い未来と近い過去の表現
13	命令法
14	時間の表現
15	地図を読み解く
16	後期全体の復習と期末テスト

【履修上の注意事項】

『仏和辞典』を毎時間クラスに持参して、単語の検索に慣れるようにすること。CDやテープを繰り返し聞き、正確なフランス語の発音ができるように努めてください。指定学科と年次を守って下さい。

【評価方法】

授業中の態度、レポートの内容、テスト（中間と期末）の結果などを総合的に判断して、成績を評価します。テスト実施日迄にレポートを提出していない受講生は、テストを受ける資格をなくします。

【テキスト】

澤田 直之、リリアンヌ・ラタンジオ、黒川 学 著『アミカルマン—フランス語・フランス文化への誘い』
[CD付改訂版]（駿河台出版社）

【参考文献】

辞典：多田 道太郎 編『クラウン仏和辞典』（三省堂）

フランス語Ⅲ

担当教員 大下 祥枝

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 2～4年次対象 全学科（火金2）

【授業のねらい】

フランス語I・IIのテキストを引き続き用いて、初級文法の主要事項を説明します。発音、会話、作文の力がつくような工夫をこらした授業を進める予定です。フランス文化に関連したビデオを鑑賞する時間も入れます。

【授業の展開計画】

- 1週 I・IIで学習した内容の復習
- 2週 人称代名詞（直接目的補語）
- 3週 人称代名詞（間接目的補語）
- 4週 比較級を使った表現
- 5週 最上級を使った表現
- 6週 代名動詞
- 7週 疑問形容詞
- 8週 非人称表現
- 9週 前期前半の復習と中間テスト
- 10週 食事や食器類の名称
- 11週 複合過去
- 12週 複合過去
- 13週 昨日したことを語る
- 14週 勧誘する表現
- 15週 否定の表現のまとめ
- 16週 前期全体の復習と期末テスト

【履修上の注意事項】

授業時間数は限られていますので、個人でCD・ビデオ・ラジオやテレビ講座などを活用して、フランス語の会話や作文ができるように努めてください。フランスの社会・文化・芸術などに関する情報を集めて、クラスで発表しましょう。

【評価方法】

授業中の態度、レポートの内容、テスト（中間と期末）の結果などを総合的に判断して、成績を評価します。テスト実施日迄にレポートを提出していない受講生は、テストを受ける資格を失います。

【テキスト】

澤田 直之、リリアンヌ・ラタンジオ、黒川 学 著『アミカルマン—フランス語・フランス文化への誘い』
[CD付改訂版]（駿河台出版社）

【参考文献】

田島 宏 編『コレクション・フランス語⑤読む』（白水社）
田島 宏 編『コレクション・フランス語⑥聞く』（白水社）

フランス語Ⅳ

担当教員 大下 祥枝

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 2～4年次対象 全学科（火金2）

【授業のねらい】

フランス語Ⅰ・Ⅱのテキストを引き続き用いて、初級文法の主要事項を説明します。発音、会話、作文の力がつくような工夫をこらした授業を進める予定です。「実用フランス語検定試験」4級・3級・準2級受験の直前対策講座も行ないます。

【授業の展開計画】

- 1週 半過去
- 2週 複合過去と半過去を使った表現
- 3週 関係代名詞
- 4週 強調構文
- 5週 仏検4級・3級・準2級対策講座
- 6週 受動態と能動態
- 7週 単純未来
- 8週 メディアと観光に関する用語
- 9週 後期前半の復習と中間テスト
- 10週 ジェロンディフと現在分詞
- 11週 感嘆文の作り方
- 12週 中性代名詞
- 13週 条件法現在
- 14週 接続法現在
- 15週 日常会話の練習
- 16週 後期全体の復習と期末テスト

【履修上の注意事項】

授業時間数は限られていますので、個人でCD・ビデオ・ラジオやテレビ講座などを活用して、フランス語の会話や作文ができるように努めてください。「実用フランス語検定試験」を受けて、実力を確かめましょう。

【評価方法】

授業中の態度、レポートの内容、テスト（中間と期末）の結果などを総合的に判断して、成績を評価します。テスト実施日迄にレポートを提出していない受講生は、テストを受ける資格を失います。

【テキスト】

澤田 直之、リリアンヌ・ラタンジオ、黒川 学 著『アミカルマン—フランス語・フランス文化への誘い』
[CD付改訂版]（駿河台出版社）

【参考文献】

田島 宏 編『コレクション・フランス語⑤読む』（白水社）
田島 宏 編『コレクション・フランス語⑥聞く』（白水社）